

設置計画の概要

事 項	記 入 欄
事前相談事項	事前伺い
計画の区分	研究科の専攻（専門職大学院）に係る課程の変更
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジン ワカヤマダイガク 国立大学法人 和歌山大学
フリガナ大学の名称	ワカヤマダイガクホウジン 和歌山大学大学院 [Graduate School of Wakayama University]
新設学部等における教育研究上の目的、養成する人材像	<p>【教育学研究科(教職開発専攻)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学校改善マネジメントコース(既設) ●授業実践力向上コース(既設) ●スペシャリストコース(新設) <p>・養成する人材像 現職教員を対象として、当該教科や分野のリーダーとなる教員。</p> <p>・習得させる能力 当該教科や分野の高い専門性、当該教科や分野・領域の知識や考え方を教科や領域を超えて、日常から未来に広がる学びを創り出す力。学校全体の教育課程の編成に寄与し、ミドルリーダーとして若手等の育成に貢献できる力。</p> <p>・卒業後の進路 指導教諭、教科主任、研究主任</p> <ul style="list-style-type: none"> ●特別支援教育コース(新設) <p>・養成する人材像 近年増加している知的障害・発達障害のある児童生徒に対する教育のエキスパート。現職教員の場合は知的障害・発達障害のある児童生徒の校内支援体制の整備において中核的役割を担い、通常の学校・通常の学級からの教育相談に適確に対応できる人材。</p> <p>・習得させる能力 知的障害・発達障害のある児童生徒のアセスメントから学習指導、心理的支援に至るまでの個別の指導・支援、保護者・地域の教育関連機関との連携に関する実践的能力。</p> <p>・卒業後の進路 教頭、指導主事、教務主任、研究主任、一般教員</p>
既設学部等における教育研究上の目的、養成する人材像	<p>【教育学研究科(教職開発専攻)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学校改善マネジメントコース <p>・養成する人材像 教職経験10年程度の現職教員で、管理職になり得る人材。</p> <p>・習得させる能力 これまでの経験を学校経営という観点から整理・意味づけを行い、専門的知見に基づく高度の実践的指導力。現任校をよりよい学校へと改善する中心的役割を担う能力。地域の強みを活かした学校づくりに寄与する能力。自ら学び続けるとともに、周りの教職員の学びを支援する能力。</p> <p>・卒業後の進路 教頭、指導主事、教務主任、研究主任</p> <ul style="list-style-type: none"> ●授業実践力向上コース <p>・養成する人材像 教員養成または教員免許未取得の学部卒業生など教職経験がない、あるいは浅い者を対象とし、「確かな授業力」をもち、若手のリーダーとなる人材。</p> <p>・習得させる能力 子ども理解と確かな知識に根差し、子どもや学校・地域の実態に応じた授業を計画・展開できる「確かな授業力」。子どもの学びをエンパワーする学習集団としての学級を育てる力。子ども、保護者、教職員から信頼される力。よりよい実践に向けて、学び続ける力。</p> <p>・卒業後の進路 一般教員</p> <p>【教育学研究科(学校教育専攻)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教育科学コース <p>・養成する人材像 豊かな人間性と高度な専門的教養を身につけ、学校教育を理論的・実践的に研究することのできる優れた能力を有する教育者。</p> <p>・習得させる能力 学校教育に関連する諸学問分野(教育学、学校経営、教育社会学、社会教育、教育心理学、発達心理学、教育臨床心理学など)について理解を深めるとともに、これらの内容を理論的・実践的に研究できる力。</p> <p>・卒業後の進路 教員、公務員、教育関連企業、研究者</p> <ul style="list-style-type: none"> ●特別支援教育コース <p>・養成する人材像 豊かな人間性と高度な専門的教養を身につけ、特別支援教育を理論的・実践的に研究することのできる優れた能力を有する教育者</p> <p>・習得させる能力 特別支援教育に関する諸科学(教育学、心理学、発達臨床学、社会福祉学、医学など)について理解を深めるとともに、これらの内容を理論的・実践的に研究できる力</p> <p>・卒業後の進路 教員、公務員、教育関連企業、研究者</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教科教育コース <p>・養成する人材像 初等・中等教育における各教科の高度な専門的知識や理解力を身につけ教育的実践力を有する教育者</p> <p>・習得させる能力 各教科の基礎となる教科教育の幅広い内容について理解を深めるとともに、これらの内容を理論的・実践的に研究できる力</p> <p>・卒業後の進路 教員、公務員、教育関連企業、研究者</p>
新設学部等において取得可能な資格	<p>【教育学研究科(教職開発専攻)】</p> <p>小学校、中学校(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、職業、職業指導、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語、宗教)、高等学校(国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、情報、農業、工業、商業、水産、福祉、商船、職業指導、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語、宗教)、特別支援学校(知的障害者、肢体不自由者、病弱者)の専修免許状を取得できる。</p>
既設学部等において取得可能な資格	<p>【教育学研究科(教職開発専攻)】</p> <p>小学校、中学校(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、職業、職業指導、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語、宗教)、高等学校(国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、情報、農業、工業、商業、水産、福祉、商船、職業指導、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語、宗教)の専修免許状を取得できる。</p> <p>【教育学研究科(学校教育専攻)】</p> <p>小学校、中学校(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語)、高等学校(国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、英語)、幼稚園、特別支援学校(知的障害者、肢体不自由者、病弱者)の専修免許状を取得できる。</p>

等 新 設 概 要	新設学部等の名称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	授与する学位等		開設時期	専任教員			
							学位又 は称号	学位又は 学科の分野		異動元		助教 以上	うち 教授
		教育学研究科 [Graduate School of Education]	教職開発専攻 [Course Specializing in Professional Development in Education]	2年	23	-	46	教職修士 (専門職)	教員養成関係	平成31年 4月	教育学研究科教職開発専攻	14	7
										教育学研究科学校教育専攻	2	1	
										計	16	8	
既 設 学 部 等 の 概 要	既設学部等の名称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	授与する学位等		開設時期	専任教員			
							学位又 は称号	学位又は 学科の分野		異動先		助教 以上	うち 教授
		教育学研究科 [Graduate School of Education]	教職開発専攻 [Course Specializing in Professional Development in Education]	2年	15	-	30	教職修士 (専門職)	教員養成関係	平成28年 4月	教育学研究科教職開発専攻	14	7
											計	14	7
			学校教育専攻 [Course Specializing in General School Education]	2年	30	-	60	修 士 (教育学)	教育学・保育 学関係	平成5年 4月	教育学研究科学校教育専攻	65	38
										教育学研究科教職開発専攻	2	1	
										計	67	39	

【備考欄】
 ※教職大学院は、大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施
 教育学研究科学校教育専攻（△8）
 特別支援教育特別専攻科（廃止）（△10）

教育課程等の概要（事前伺い）

（教育学研究科 教職開発専攻
 学校改善マネジメントコース、授業実践力向上コース、
 スペシャリストコース、特別支援教育コース）

【新設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専攻共通基礎科目	教育課程における今日的課題	1前I	2				○		1		1			兼3	オムニバス方式・共同（一部）	○△□
	教育課程における今日的課題（特別支援教育）	1後IV	2				○							兼2	集中 共同	◇
	教材研究における今日的課題	1前II	2				○		3		1			兼2	オムニバス方式・共同（一部）	○△□
	教材研究における今日的課題（特別支援教育）	1前II	2				○				1			兼1	共同	◇
	問題行動と保護者との連携	1.2後IV	2				○		2						共同	○△□
	学校と家庭との連携（特別支援教育）	1前II	2				○		2		1				共同	◇
	特別支援教育と体制	1前I	2				○		1					兼3	オムニバス方式・共同（一部）	○△□◇
	子どもの権利	1前II	2						1					兼2	集中 共同	○△□◇
小計（8科目）			16	0	0	—			6		2			兼8		
専攻共通深化科目	学習過程と評価	1.2後IV		2			○				1			兼1	共同	○△□◇
	能動的学習の実践的研究（ICTを含む）	1後III		2			○		2						共同	○△□◇
	自立活動（特別支援教育）	1通年		2			○		1					兼3	共同	○△□◇
	道徳教育（小）	1前II		2			○				1			兼1	集中 共同	○△□◇
	道徳教育（中）	1前II		2			○				1			兼1	集中 共同	○△□◇
	特別活動	1後IV		2			○			2					共同	○△□◇
	生徒指導と体制	1.2前II		2			○		2	1					共同	○△□◇
	学校・学級経営Ⅰ	1前I		2			○		1	1				兼1	共同	△
	学校・学級経営Ⅱ	2前II		2			○		1	1				兼1	集中 共同	△
学校・学級経営（特別支援教育）	1前I		2			○		1					兼1	共同	◇	
和歌山における家庭・地域と連携した学校づくり	1後III		2					1		1				共同	○△□◇	
小計（11科目）			—	0	22	0	—			5	2	3		兼7		
コース	学校と法	1前I		2			○		1		1				共同	○
	学校組織と経営	1前I		2			○		1							○
	教育と福祉の連携	1前I		2			○		3						共同	○
	教育課程編成の理論と実践（カリキュラムマネジメントを含む）	1前II		2			○				1			兼1	共同	○□
	授業研究の理論と実践	1前II		2			○		1		1			兼1	共同	○□
	若手校内研修への支援	1前II		2			○		3	3					共同	○□
	小規模校支援	1後III		2			○		1		1				共同	○△□
	学校安全と危機管理	1後III		2			○		1	1	1				共同	○△□
	基礎基本学習指導方法	1後III		2			○				1			兼1	共同	○△□
	授業・教材研究Ⅰ	1前II		2			○		2	3					共同	△
	授業・教材研究Ⅱ	1後III		2			○		2	3					共同	△
	授業・教材研究Ⅲ	1後III		2			○		2	3					共同	△
理科実験（小）	1前I		2			○		1	1					共同	○△□	
理科実験（中・高）	1前I		2			○		1	1					共同	○△□	

科目	理科教材開発（中・高）	1前I	2				○		1	1					共同	○△□
	探求のための教材開発－水	1前II	2				○		1					兼2	共同	○△□
	探求のための教材開発－光	1前II	2				○		1					兼1	共同	○△□
	探求のための教材開発－米	1前II	2				○		1					兼2	共同	○△□
	探求のための教材開発－宇宙	1後IV	2				○		1	1					共同	○△□
	探求のための教材開発－統計を使った店舗戦略	1後IV	2				○		1	1					共同	○△□
	探求のための教材開発－プログラミング	1後IV	2				○		1							○△□
	特別支援教育推進のための関連機関との連携	1後III	2				○		1					兼2	集中 共同	◇
	知的障害・発達障害のアセスメントとケーススタディ	1後III	2				○		1						集中	◇
	知的障害児及び発達障害児の学習指導	1後IV	2				○			1				兼1	共同	◇
	障害児の生理病理と臨床	1後III	2				○							兼1	集中	◇
	特別支援教育とコンサルテーション	1通	2				○		1					兼1	共同	◇
	発達障害のある子どもの二次障害の予防と対策	1後IV	2				○		1	1					共同	◇
	特別支援教育の理念と現代的課題	1前I	2				○							兼2	共同	◇
小計（28科目）	—	18	38	0		—		8	3	5			兼9			
実習	課題リサーチインターンシップ	1通	4				○	3		3					共同	○□
	学校実践実習A	2前I・II	3				○	3		3					共同	○□
	学校実践実習B	2後III	3				○	3		3					共同	○□
	先進校実習	1後IV		1			○	3		3					共同	○□
	授業参加インターンシップ	1通	4				○	2	3	1					共同	△
	授業実践実習A	2前I	3				○	2	3	1					共同	△
	授業実践実習B	2後III	3				○	2	3	1					共同	△
	小規模校実習	1後IV		1			○	2	3	2					共同	△
	課題リサーチインターンシップ（特別支援教育）	1通	4				○	1		1					共同	◇
	授業参加インターンシップ（特別支援教育）	1通	4				○	1		1					共同	◇
	学校実践実習A（特別支援教育）	2前I・II	3				○	1		1					共同	◇
	授業実践実習A（特別支援教育）	2前I	3				○	1		1					共同	◇
	学校実践実習B（特別支援教育）	2後III	3				○	1		1					共同	◇
	授業実践実習B（特別支援教育）	2後III	3				○	1		1					共同	◇
小計（14科目）	—	40	2	0		—	6	3	5							
実習関連科目	課題分析	1通	2				○	3		3					共同	○
	課題分析	1通	2				○	4	3	1					共同	△
	課題分析	1通	2				○	2	1	1					共同	□
	課題分析（特別支援教育）	1通	2				○	1		1					共同	◇
	小計（4科目）	—	8	0	0		—	8	3	5						
修了研究科目	修了研究	2通	2				○	3		3					共同	○
	修了研究	2通	2				○	4	3	1					共同	△
	修了研究	2通	2				○	2	1	1					共同	□
	修了研究（特別支援教育）	2通	2				○	1		1					共同	◇
	小計（4科目）	—	8	0	0		—	8	3	5						
合計（69科目）		—	90	62	0	—		8	3	5				兼18		
学位又は称号	教職修士（専門職）				学位又は学科の分野				教員養成関係							

設置の趣旨・必要性

I 設置の趣旨・必要性

1 本学に設置する必要性

和歌山大学は、県内唯一の国立総合大学として「地域と融合する大学」であるとともに、持続可能な社会の実現に寄与することを宣言している。また、平成26年(2014年)には「生涯あなたの人生を応援します」のスローガンのもと、在学中だけでなく卒業後も人生の転機を迎えた時に、さまざまな形で支援することができる大学をめざして変革を進めている。

こうした目的に基づき、教師教育において大学における養成から現職研修まで「教師の生涯を支援する」ことを目指し、県教育委員会との協働、地域の学校現場との密接な関係の上で、教師がそのキャリア全体を通して、大学と学校現場を常に往還し学び続けることで、学校を「新たな学びの世界」として創造することができ「常に往還する」場となる大学・大学院へと改革を進め、その先駆けとして、平成28年度に教職大学院を設置した。

教師の多様なキャリアパスに応じた教育の提供を明確にするため、学部卒者等に対し「確かな授業力」の向上と新しい学校づくりの有力な一員となり得る新人教員の養成を行う「授業実践力向上」コースと、学校経営を主とし、現職教員の管理職候補者に対して「現任教をよりよい学校へと改善する中心的役割を担うことのできる教員」、「地域の強みを活かした学校づくりに寄与する教員」の養成を行う「学校改善マネジメント」コースを置いている。両コースではそれぞれのコースの趣旨に則して、開設より2年間にわたり教育研究を行ってきたところである。

平成31年度からは「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議」(以下、「有識者会議」という。)報告書に挙げられている課題に対して、これまでの実績を活かし、更なる教職大学院の教育内容の充実、特に学校現場に即した教科領域の教育や社会の実情を踏まえた最新の教育課題に対応すべく、既存の「授業実践力向上」コースに教員免許未取得学部卒業生を対象とした3年(ないし4年)修学課程の「免許取得プログラム」を追加するとともに、既存の2つのコースに加え、新たに「スペシャリストコース」と「特別支援教育コース」を設けることとした。

なお、今回設置する「スペシャリストコース」については、平成32年度を目標に「グローバル・ローカル・シティズンシップ・プログラム」(GLCP)〔仮称〕を新設する予定である。当該コースは、本学教職大学院のコンセプトである「地域で学び、世界に生き、地域を支える」から、地域と世界の両方に生きる市民として、持続可能な社会を追究することができる子どもの育成を図る教育を開発する。さらに、スーパー・サイエンス・ティーチャー・プログラム(SSTP)とGLCPの両者をベースとして、アート(芸術・表現・パフォーマンス等)を追究する分野に関する学びを提供する。これを機に、平成32年度からは、これまでの既設の修士課程における教科教育に係る実績や資源を活かした、より実践的な教職大学院の教育内容の充実を図るべく、GLCPをはじめとした「スペシャリストコース」への移行をもって、教育学研究科を教職大学院に完全に一本化することとしている。

2 新設コースやプログラムの設置の必要性(図1)

(1) 授業実践力向上コース(既設)に設置する「免許取得プログラム(3年(ないし4年)修学課程)」

本学教育学研究科では、従来から教員免許未取得者に対して、修士課程の履修と併せて学部科目を科目等履修することにより、教員免許状を取得することが可能となるコースを設置していた。本学他学部や他大学の卒業生など毎年6~7人程度の希望者があり、うち小学校教員免許取得を望むものは、毎年2~3人程度の希望者がある。彼らは大学入学後、教員志望が強くなったものと考えられるが、大学院入学時には教員志望が高く意識も高く、修了後に教職に就くものが多い。また、他学部でそれぞれの分野において専門的な教育を受けた学生が、学校教育について学ぶことで、専門性の高い教員を育成してきた。

教職大学院は専門職大学院であることから、教員免許未取得者を入学させることに対して「高い専門性の育成」という観点から慎重な態度を取り、これまで入学を認めていなかった。しかし、この2年間の教育研究を行う中で、1年目に免許科目の履修に専念させるなど教育課程や修学指導を整えることで、こうした教員志望の意識が高く、それぞれの分野で専門性を習得した学生を受け入れ、より優秀な教員を育成できるとの結論に至った。

特に、本学他学部と連携して免許取得希望者を選考し、学部在学中から教育学部の免許関係科目の一部を履修させることで、教員としての意識を高めさせるとともに、教職大学院入学後の取得単位数を軽減することで、早期に専門職大学院の高いレベルの学習が可能となる。このことは、有識者会議の報告書でも求められている「総合大学の強みを生かした教員養成」に応えることにもなる。

また、教育学部の主たる役割のひとつである「小学校教員養成」についても、他大学からの希望者を受け入れ、それぞれの分野で専門的な教育を受けてきた者を小学校教員として養成することで、教科と教職の両方で専門性の高い教員として輩出することができ、こうした社会的要望に応えることになる。

(2) スペシャリストコース

新学習指導要領では、すべての教科においてその教科の「見方・考え方を働かせ、教科の活動を通じて、その教科的に考える資質・能力を育成する」ことが、学ぶ本質的な意義の核をなすものとして明示されている。さらに「学習の基盤となる資質・能力や現代的諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のためには、教科横断的な学習を充実する必要」があるとされている。

教職大学院では既設研究科に設けられた単一の「教科」ではこうした新たな課題には十分に 대응することができないと考え、「教科」における各分野の専門性を基礎に、幅広く習得した知識・技能を総合的に活用して、魅力的な教育活動の提供ができる資質・能力を身に付けさせる必要から、スペシャリストコースを設けることとした。

具体的には、当該コースには、複数の教科・科目から成る「プログラム」を設置する。平成31年度の設置は「スーパー・サイエンス・ティーチャー・プログラム」の1つであるが、今後の予定は前述のとおりである。

スペシャリストコースの各プログラムでは、現職教員を対象として、これまで教科や分野・領域の指導や実践的研究で習得してきた専門的知識や実践力をもとに、専門性を深めることに留まらず当該教科や分野・領域の知識や考え方を教科や領域を超えて、日常から未来に広がる学びを創り出す教員を育成する。また、当該教科等はもとより、学校全体の教育課程の編成に寄与し、ミドル・リーダーとして若手等の育成に貢献できる資質能力を高めることを目的とする。

<スーパー・サイエンス・ティーチャー・プログラム(SSTP)>

新学習指導要領では、すべての教科で「見方・考え方を活かすこと」が求められ、理科分野では前回改訂において2~3割程度授業時間数を増加し充実させた内容を今回も維持した上で、「日常生活等から問題を見いだす活動(小:算数、中:数学)や見通しをもった観察・実験(小・中:理科)などの充実による学習の質向上」を求められており、小学校教員及び中学校理科教員ともに、それぞれの課題に対して学び直しが必要となる。特に、本学が科目提供する「日常生活等から問題を見いだす活動」であり、且つ「科学的なものの見方・考え方を深める活動」は必要性の高いものである。しかしながら、平成27年度の全国学力学習状況調査で「理科は好きですか」という質問に対し、中学校になると「理科が好き」というポイントが大幅に下がっている。これは国語(△0.9ポイント)や算数・数学(△10.5ポイント)と比べると、理科では△21.6ポイントとなり、「理科は、中学生が最も好きではなくなる教科」といえるのではないだろうか。同調査における「理科の授業の内容はよくわかりますか」に対し、小学校では半数以上が「当てはまる」と回答しているが、中学校では26.2%である。それは、多くの場合中学校になると抽象的な概念操作中心の学習に移り、小学校までのように実際に体験する身の回りの自然や生活や社会と結び付かなくなることによると考えられる。実験について言えば、小学校教員志望者で「実験が苦手」とする者が半数以上に上っている。(科学技術振興機構「理科を教える小学校教員の養成に関する調査報告書」2011)。

そこで本学教職大学院では、教育学部科学教室における小学生から高校生までの「おもしろ科学実験」、「実験工作キャラバン隊」、「スーパーサイエンティストプロジェクト」、「出前授業」などの取組みの蓄積を活かし、また、システム工学部と協働することで、理学部などで陥りがちな理論偏重ではなく、最先端の知識や技術を学校現場におけるモノづくり活動に活かすことによって、実験や観察を有効に取り入れ、理科という教科を超えて、「科学」という広がりのある学びを創り出す教員を育成することとした。

○育成する教師像

- ・科学の楽しさを実感できる実践ができる。
- ・小学校高学年や中学校で授業において効果的に実験を取り入れた実践ができる。
- ・モノづくりを通して「学び直し」を展開できる。
- ・複合的な知識や技術に基づく課題を提供できる。
- ・児童・生徒が将来働くであろう職場で今後求められる専門知識・技術を踏まえた実践ができる。

(3)特別支援教育コース

特別支援教育コースは、近年増加している知的障害・発達障害のある児童生徒の指導・支援の専門性向上に加え、障害の多様化や重度・重複化に伴う支援体制の構築という学校現場のニーズに対応するために設置する必要がある。

現職教員及び学部からの進学者などを対象に、特別支援教育に関する理解を深め、障害など特別な配慮を必要とする児童生徒一人ひとりに応じた教育が行える実践力を高める。とくに、現職教員については、児童生徒の自立や社会参加に向けたライフステージに応じた指導・支援を行うとともに、特別支援学校のセンター的機能を果たすためコンサルテーションの専門性を向上させる。また、学校運営に寄与するために、若手教員等の育成に当たるミドルリーダーの資質能力を高める。特別支援学級の教員は、児童生徒の指導・支援に関する専門性を高め、特別支援教育コーディネーターとして、通常の学級に在籍し支援を必要とする児童生徒への全校的対応について助言を行い、校内支援体制の構築に寄与する資質能力を高める。あわせて、現職教員及び学部からの進学者とともに、特別な配慮を必要とする児童生徒の家庭の理解、支援を行うことができる資質能力を高める。

3 3つのポリシー

○アドミッション・ポリシー

- ・熱意と誠実さをもって、教職に取り組む姿勢
- ・高い人権意識
- ・学び続ける意欲
- ・反省的实践者としての姿勢
- ・教職や教育実践についての豊かな経験（現職教員）
- ・教職や教育実践についての基本的な知識（学部卒業生）
- ・円滑なコミュニケーション力

○カリキュラム・ポリシー

本学教職大学院は、地域に根差した教育と世界ビジョンの教育を実践する教師を養成するために、以下の視点からカリキュラムを編成する。

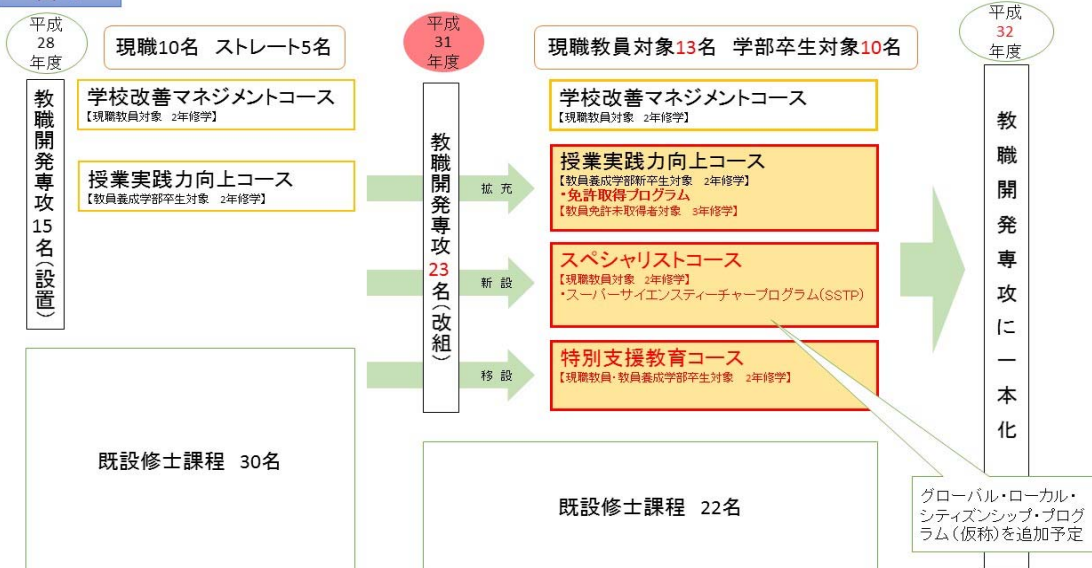
- ・最新の専門理論・技術と実践の架橋
- ・地域の学校・子どもの実態、必要性に応じた実践を行うための理論・技術の修得
- ・時代が求める教育を地域に応じて展開できる理論の修得と実践
- ・地域、関係機関とのネットワーク構築のための理論の修得と実践
- ・地域の学校と密着した実習科目の設定

○ディプロマ・ポリシー

本学教職大学院では、「学び続ける教師」として、以下の能力を修得することを修了認定の基準とする。

- ・広い教養と深い専門知識をもち、常にその深化・進化を図る能力
- ・高い人権意識を持ち、その推進を図る能力
- ・省察に基づいて常に実践の改善に取り組む能力
- ・短期的視野と長期的視野の両方から考察する能力
- ・自ら積極的に人とつながる、人をつなげる能力

図 1



II 教育課程編成の考え方・特色

1 教育課程の考え方

(1) 教育課程編成と単位数

教職開発専攻履修基準単位は、修了単位を46単位とし、内訳は図2の通りである。

図 2

教職開発専攻履修基準単位表

科目区分		取得単位数
専攻共通科目	専攻共通基礎科目	10
	専攻共通深化科目	10
コース専門科目		12
実習科目		10
実習関連科目		2
修了研究		2
計		46

(a) 専攻共通科目

専攻共通科目は、全員が必修である基礎科目と選択必修である深化科目から成る。基礎科目は5領域に1科目ずつ必修科目として配置している(一部科目はコースにより指定)。深化科目は、コースや職務経験などを考慮して選択することになる(一部科目はコースにより指定)。ただし、学校改善マネジメントコースの履修者については、4単位を上限にコース専門の科目に代えて履修することが可能である。

5領域の専攻共通科目には、①両コースにとって共通して新たな知識・技術の修得となるもの、②現職教員と学部卒生の共学によって双方の学習効果がより上がると考えられる科目、③和歌山地域や子どもの現状や課題について理解し考えることをコンセプトとして科目を置く。

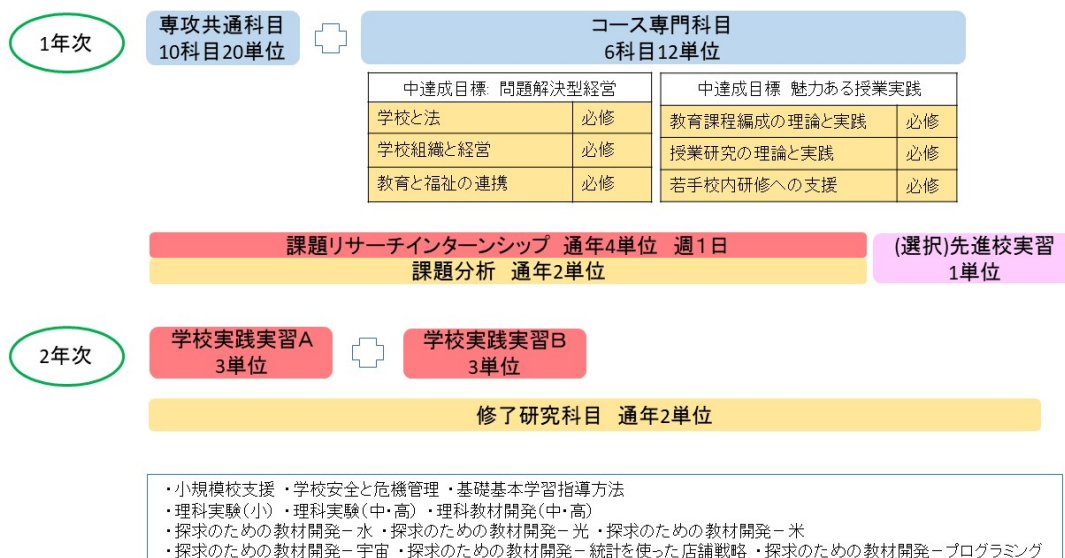
(b) コース専門科目

コース専門科目については、各コースで必修として定められている科目を履修し、残りの単位数がある場合には他のコースの提供している科目を選択し必修の単位に充てる(一部科目では他コース履修生に履修制限が設定されている)。また、必修単位を充足している場合でも、他のコースの提供している科目を履修することも可能である。

○「学校改善マネジメントコース」(図3)

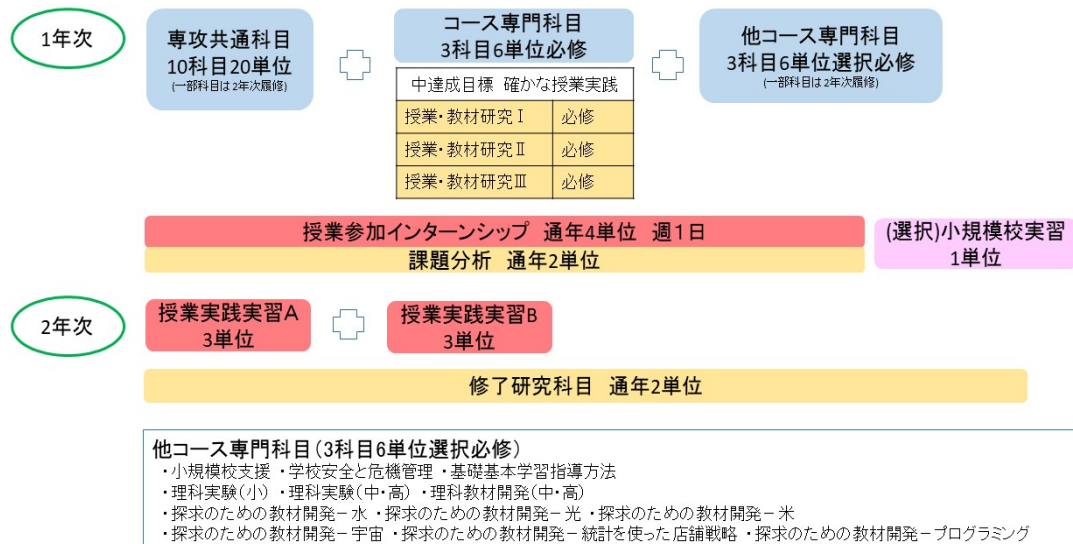
図 3

学校改善マネジメントコース【現職教員対象 2年修学】



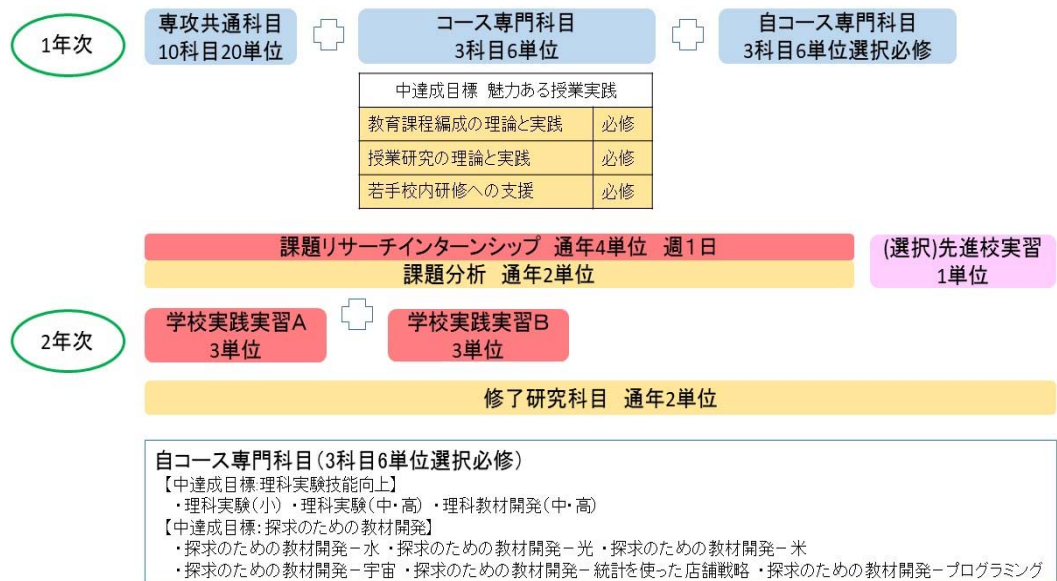
○「授業実践力向上コース」(図4)

図4 授業実践力向上コース【教員養成学部新卒生対象 2年修学】

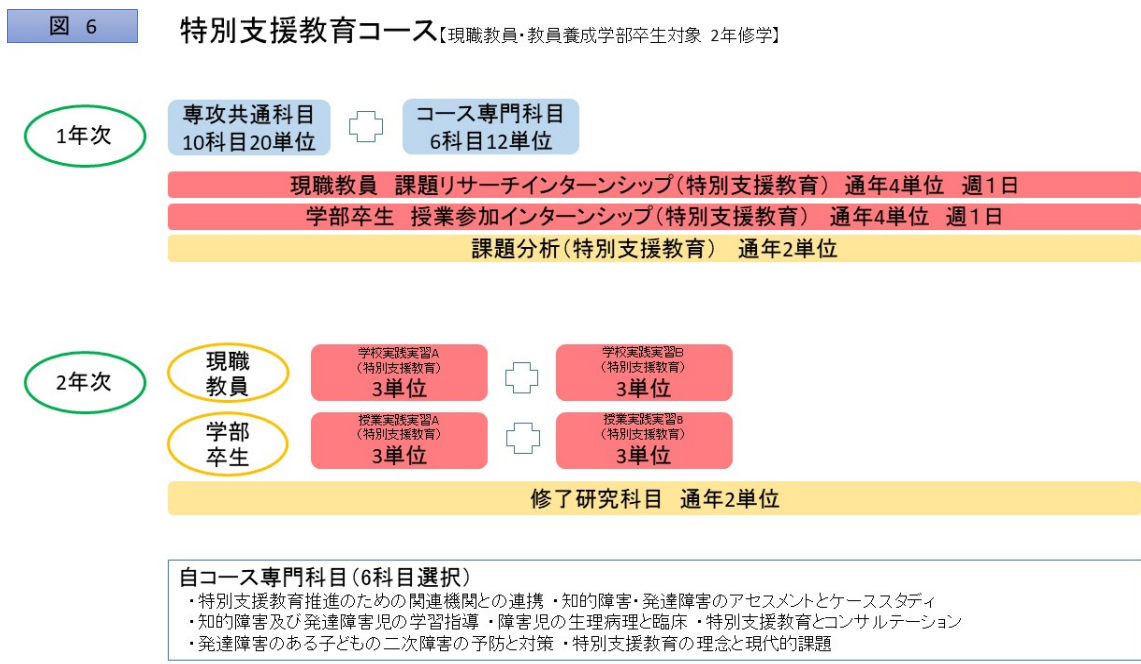


○「スペシャリストコース(スーパー・サイエンス・ティーチャー・プログラム)」(図5)
コース専門科目として9科目を提供している。当該コース履修生は、「学校改善マネジメントコース」の提供するミドル・リーダーの資質能力向上のための3科目6単位が必修科目として定められている。

図5 スペシャリストコース【現職教員対象 2年修学】
・スーパー・サイエンス・ティーチャー・プログラム



○「特別支援教育コース」(図6)



(c)実習科目・実習関連科目(図7)

「実習科目」10単位及び「実習関連科目」2単位を必修とする。原則としてどの実習も免除は認めないものとする。「実習関連科目」として「課題分析」を置いている。

○現職教員

現職教員については、1年次毎週月曜日に現任校に戻り、現任校の課題を分析し、校長をはじめとする教職員と意見交換等を行う「課題リサーチインターンシップ」(4単位)を実施する。その内容を「課題分析」で検討し、「中間報告」(改善計画)としてまとめる。2年次には「中間報告」(改善計画)に基づき、現任校で「学校実践実習A・B」に取り組み、その成果を「修了研究報告書」としてまとめる。

○学部卒生

学部卒生は、入学当初に小・中・特の免許種別によって連携協力校や附属特別支援学校から2年次の実習校を決定する。1年次毎週月曜日に実習校で「授業参加インターンシップ」を行い、学校や子どもの実態を理解し、2年次の実習に備え、「課題分析」において実習校の実態を分析、自己の課題を設定して「中間報告」(自己学習計画)を作成する。2年次のクォーターIで「授業実践実習A」に取り組み、実習校における自らの実践の分析、自己の課題の達成度の分析を行い、「授業実践実習B」に向けて、自己の学習計画を立てる。クォーターIIIで「授業実践実習B」に取り組み、「授業実践実習A・B」の成果を「修了研究報告書」としてまとめる。

図 7 実習計画の概要

	実習の種類	単位数	期間	時間数	時期	実習先	巡回指導回数	学生の配置
学校改善マネジメントコース	課題リサーチインターンシップ	4	毎週月曜日	最低20日間	1年次 4月～7月、 9月～2月	現任校	年間3回程度	1名
	学校実践実習A	3	3か月	週1日半日 (巡回指導日)	2年次 4月～7月	現任校	月2回程度	1名
	学校実践実習B	3	3か月	週1日半日 (巡回指導日)	2年次 9月～11月	現任校	月2回程度	1名
	先進校実習	1	1週間		1年次 2月	連携協力校	2回	各校 5名程度
授業実践力向上コース	授業参加インターンシップ	4	毎週月曜日	最低20日間	1年次 4月～7月、 9月～2月	連携協力校	月1回程度	各校 2～3名程度
	授業実践実習A	3	4週間		2年次 4月～5月	連携協力校	原則毎日	各校 2～3名程度
	授業実践実習B	3	4週間		2年次 9月～11月	連携協力校	原則毎日	各校 2～3名程度
	小規模校実習	1	1週間		1年次 2月	連携協力校	引率	各校3名

(d) 修了研究科目

「修了研究」2年次通年2単位とする。

○現職教員

「修了研究」では、「課題リサーチインターンシップ」、「課題分析」、「学校実践実習A・B」における実践記録、整理・分析をもとに、現任校で得た知見が地域の学校にどのように活かされるかについても検討を行い、「修了研究報告書」としてまとめ、現任校をはじめ学校関係者参加の「修了研究報告会」で発表できるよう準備を行う。指導については、訪問指導日、長期休業中など適宜行う。

○学部卒生

自らの学びと課題を「修了研究報告書」にまとめる。「修了研究」では「課題リサーチインターンシップ」、「課題分析」、「学校実践実習A・B」における実践記録、整理・分析をもとに、自己課題、取組、省察・成果、今後の課題についてまとめ、実習校をはじめ学校関係者参加の「修了研究報告会」で、自己課題、取組、省察・成果、今後の課題について準備を行う。

2 特色

(1) 教職開発専攻における特色（特別支援教育コースは除く）

各コースが提供するコース専門科目群では、学びの関連性の高いものを3科目(6単位)の「ユニット」として「中達成目標」をつけて提示することで、それらの科目で「何が習得できるのか」や「何ができるようになるのか」を意識して学べるようにした。

現職教員に対しては、ミドル・リーダーとしての資質・能力の向上を図ることをひとつの柱としていることから、「教育課程編成の理論と実践」、「授業研究の理論と実践」、「若手校内研修への支援」の3科目を「魅力ある授業実践」というテーマで必修として設定している。

学部卒生に対しては、「授業・教材研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の3科目を「授業を創ろう」というテーマで必修として設置している。「授業参加インターンシップ」との連携を重視し、実習の指導担当大学教員が当該授業も担当・参加し、知識と実践の往還による融合を図っている。

地域的課題について、和歌山の小規模校や複式学級への対応という観点から、「小規模校支援」や「小規模校実習」（選択科目ではあるが、これまで学部卒生のすべてが履修）を配置して、経営と実践の両面から支援する学びを提供している。

(2) 新設コース・プログラムの特色

○授業実践力向上コース（既設）に設置する「免許取得プログラム」

当該プログラムを希望するものは、小学校または中学校の1種免許状を取得している者で他の免許の取得を目指している者、あるいは、「免許未取得者」である。受験に際しては、入試説明会時に行う「カウンセリング」を必ず受けることを求める。特に「免許未取得者」に対しては、学部科目等履修によって取得できる単位数を勘案して、既修得単位数の確認を行う。

当該コースを希望する者には、教職大学院入学前に「カウンセリング」を実施し、当該コースのスクリーニングを行う。

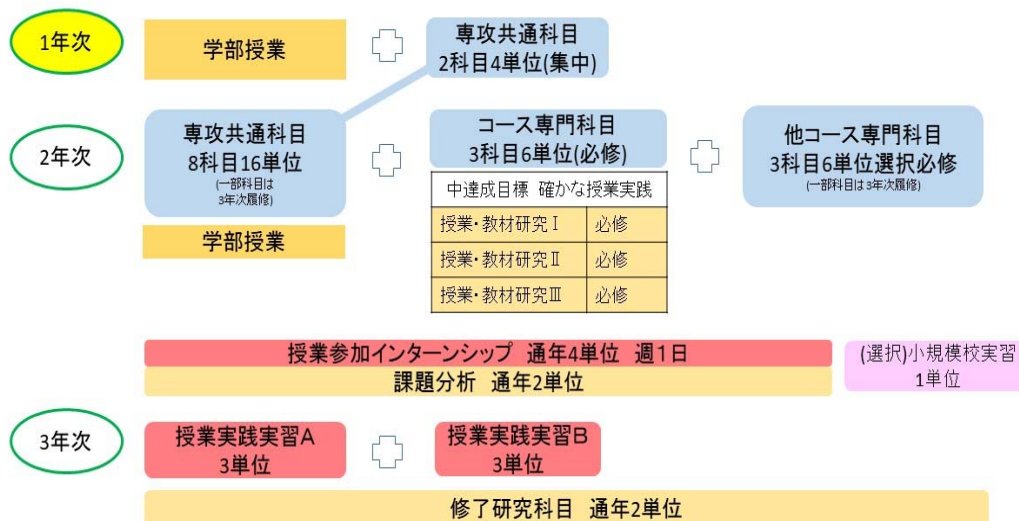
履修形態としては、入学後は、免許取得に必要な科目の学部における履修を優先させ、その後は、教職大学院の教育課程の学修に専念できるように履修指導を行う。なお、教職大学院の「授業実践実習A」、「授業実践実習B」及び「修了研究」については、小学校または中学校の1種免許状を取得していない者の履修を認めない。

通常の授業実践力向上コースの標準修了年限は2年であるが、「免許取得プログラム」に該当する者については、3年（ないし4年）とする。

図 8

授業実践力向上コース

・免許取得プログラム【教員免許未取得者対象 3年修学】



○「スペシャリストコース（スーパー・サイエンス・ティーチャー・プログラム）」
 前述した「実験」への不安や苦手意識を改善するために、小学校から高校までの理科実験に必要な知識や技能を学ぶ科目を配置した。また、本コースでは学校種を縦断して理数系の分野における興味や関心を引き出す教授方法や深い探究心を生み出すために、日常生活のテーマ「光」など3つの題材を「探究のための教材開発」として位置づけ、当該教科や分野・領域の知識や考え方を深めつつ、教科や領域を超えて、日常から未来に広がる学びを創り出す。また、「プログラミング」等の3つの題材を「探究のための教材開発」として位置づけ、これまで習得した知識を教科の枠組みを超えて活用する学びを創り出す。

本コースの提供するこれらのコース専門科目については、特に、システム工学部と連携して、学部在学中から教育学部の免許関係科目の一部を履修し、「免許取得コース」に入学した学部卒生にとっては、学部において習得した科学的専門性を学校実践につなぐことができる科目となっている。

○「特別支援教育コース」

特別支援教育において様々な課題に対応できる資質や能力を身に付けるとともに、学校実習においては特別支援学校や特別支援学級など学生のニーズに応じた実習の場を活用し、柔軟なカリキュラム体系とすることとしている。具体的には、このコースでは、特別支援教育の理念および支援体制の構築に関する理解を深めることはもとより、知的障害・発達障害のある児童生徒の教育に焦点を当て、アセスメントから学習指導、心理的支援（二次障害の予防とその対策を含む）に至るまで高度な実践知識と実践スキルを習得することができる。さらに、障害のある子どものライフステージを通じた一貫した指導・支援を行い、家庭や関連機関との連携・協働にも取り組める資質・能力を高めることにより、コンサルテーションの能力を向上させることができる。以上について、和歌山大学教育学部附属特別支援学校と連携し、附属学校での実地指導、教育実習を実施することによって学習効果を高め、修了後、学校の特別支援教育推進の中核的役割を果たす実践力を習得することができるカリキュラムとしている。

3 質保証のための取組

本学では教育課程の「理論と実践の融合」という理念のもと、本学教職大学院では、専任教員の採用に当たっては「和歌山大学大学院教職開発専攻選考基準」を、特任教授（みなし）及び交流教員（交流人事）に関しては「和歌山大学教職大学院実務家教員選考基準」を設けている。

さらに一本化を進めるにあたって、既設大学院からの移籍教員を主たる対象として、「和歌山大学大学院教職開発専攻専任への移籍についての申し合わせ」を定め、「業績基準」と「経歴・活動基準」を設け、教育課程の質的担保をより図ることとした。

また、教職大学院においては、学校での実習を中心に実践的指導を担うという観点から、専任教員については、学校現場に出て、院生の実習の指導にあたり研鑽を積むことを求めるものである。

特に特別支援教育コースにおいては、個人によって必要とする指導や支援の方法が非常に多様であるため、授業科目のうち特に実践的に学ぶことが必要であると考えられる4科目の一部授業を本学教育学部附属特別支援学校で実施し、子どもの実態から指導や支援方法を学び、実践を通して学ぶことで、より質の高い授業を行うことを可能にする。

さらに、当該4科目と附属特別支援学校で実施する「実習科目」については、院生に対してより実践的できめ細かい指導を行うために、特別支援教育の分野で高い実践力を有する退職教諭を指導補助教員（以下、アドバイザー教員）として附属特別支援学校に配置する。アドバイザー教員は、附属特別支援学校に常駐し、院生指導以外の時間は、日常的に子どもの指導や支援の補助を当てる。これによって、子どもの実態をより的確に理解することができ、実習や授業のコーディネーターや院生への指導がより的確なものになる。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>【修了要件】 教職大学院の課程を修了するためには、当該課程に2年（「授業実践力向上コース・免許取得プログラム」は3年（ないし4年））以上在学し、所定の46単位以上を修得しなければならない。</p>	1 学年の学期区分	4 期
<p>【履修方法】 「学校改善マネジメントコース」は授業科目名の後ろに「○」印を付した科目から、「授業実践力向上コース」は「△」印を付した科目から、「スペシャリストコース」は「□」印を付した科目から、「特別支援教育コース」は「◇」印を付した科目から、それぞれ専攻共通基礎科目10単位、専攻共通深進科目10単位、コース専門科目12単位、実習科目10単位以上、実習関連科目2単位、修了研究2単位、合計46単位以上を修得すること。ただし、「学校改善マネジメントコース」の履修者については、専攻共通深化科目のうち4単位を上限に、コース専門科目に代えて履修することが可能である。 ※特別支援教育コース（◇）の実習科目 ・現職教員…「課題リサーチインターンシップ（特別支援教育）」（4単位）、「学校実践実習 A（特別支援教育）」（3単位）、「学校実践実習 B（特別支援教育）」（3単位）の全ての科目を含む10単位以上を履修 ・学部卒生…「授業参加インターンシップ（特別支援教育）」（4単位）、「授業実践実習 A（特別支援教育）」（3単位）、「授業実践実習 B（特別支援教育）」（3単位）の全ての科目を含む10単位以上を履修</p> <p>【履修科目登録の上限】 年間44単位とする。ただし、「授業実践力向上コース・免許取得プログラム」の場合は、1年目に限り、前期、後期それぞれ28単位とす</p>	1 学期の授業期間	8 週
	1 時限の授業時間	9 0 分

教育課程等の概要（事前伺い）

（教育学研究科教職開発専攻学校改善マネジメントコース、授業実践力向上コース）

【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手			
専攻共通基礎科目	I 教育課程の編成及び実施に関する領域 教育課程における今日的課題 ※1	1後Ⅳ	2					○		1		1			兼3	共同	
	II 教科等の実践的な指導方法に関する領域 教材研究における今日的課題 ※1	1後Ⅳ	2					○		2	1	1				共同	
	III 生徒指導及び教育相談に関する領域 生徒指導と体制	1・2前Ⅱ	2					○		2	1					共同	
	IV 学級経営及び学校経営に関する領域 和歌山における家庭・地域と連携した学校づくり	1後Ⅲ	2					○		1		1			兼1	共同	
	V 学校教育と教員の在り方に関する領域 学校と教師 ※1	1前Ⅱ	2					○		1					兼1	共同	
	両コースとも5科目10単位必修 学校改善マネジメントコースについては、※1の科目は、これまでの学習履歴によって専攻共通深化科目の同領域の科目で代替可能																
	専攻共通深化科目	I 教育課程の編成及び実施に関する領域 学習過程と評価	1・2後Ⅳ	2					○				1			兼1	共同
		能動的学習の実践的研究	1・2後Ⅳ	2					○		1	1					共同
		II 教科等の実践的な指導方法に関する領域 ICT活用と指導技術	1前Ⅰ	2					○		1	1					共同
		基礎基本学習指導方法	1・2前Ⅱ	2					○				1			兼1	共同
道徳教育（小）		1前Ⅱ・後Ⅳ	2					○				1			兼1	集中 共同	
道徳教育（中）		1前Ⅱ・後Ⅳ	2					○				1			兼1	集中 共同	
特別活動		1前Ⅱ	2					○			2					集中 共同	
IV 学級経営及び学校経営に関する領域 特別支援教育と体制		1前Ⅰ	2					○		1					兼4	オムニバス（一部共同）	
V 学校教育と教員の在り方に関する領域 子どもの権利		1後Ⅳ	2					○		1	1				兼2	共同	
学校改善マネジメントコースは、3科目6単位を選択必修/授業実践力向上コースは、5科目10単位を選択必修																	
小計（14科目）		—	10	18	0			—		7	3	4	0	0	兼12		
学校改善マネジメントコース	コース専門科目 教育課程編成の理論と実践	1後Ⅲ	2					○				1			兼1	共同	
	問題行動と保護者との連携	1前Ⅰ	2					○		3						共同	
	学校と法	1前Ⅰ	2					○		1		1				共同	
	小規模校支援 ※2	1後Ⅲ	2					○		1		1				共同	
	学校安全と危機管理 ※2	1前Ⅱ	2					○		1	1	1				共同	
	4科目8単位選択必修																
	テーマ実践 研究科目 教育課程マネジメントとカリキュラム開発	1後Ⅳ	2					○		1		1				共同	
	授業研究の理論と実践	1前Ⅱ	2					○		1	1	1			兼1	共同	
	学校組織と経営	1前Ⅰ	2					○		1		1				共同	
	教育と福祉の連携	1後Ⅲ	2					○		3						共同	
科関連 科目 課題分析	1通	2					○		4		3			兼1	共同		
科研修 科目 修了研究	2通	2					○		4		3			兼1	共同		
小計（11科目）		—	12	10	0			—		7	2	3	0	0	兼2		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
授業実践力向上コース	専門科目 学校・学級経営 I 学校・学級経営 II	1前 I		2				○		1	1				兼1 共同	
		1後 IV		2				○		1	1				兼1 共同	
	学校改善マネジメントコース開設のコース専門科目である※2「小規模校支援」「学校安全と危機管理」を選択し、授業実践力向上コースのコース専門科目に算入可能 2科目4単位選択必修															
	テーマ実践 研究科目	授業・教材研究 I	1前 II	2					○		2	3	1			共同
		授業・教材研究 II	1後 III	2					○		2	3	1			共同
		授業・教材研究 III	1後 IV	2					○		2	3	1			共同
		授業・教材研究 IV	2前 II	2					○		2	3	1			共同
	科関実 目連習	課題分析	1通	2					○		2	3	1			共同
	科研修 目究了	修了研究	2通	2					○		2	3	1			共同
	小計 (8科目)		—	12	4	0	—			2	3	1	0	0	兼1	
実習 科目	学校改善 マネジメント コース	課題リサーチインターンシップ	1通	4					○	3		3			共同	
		学校実践実習 A	2前 I・II	3					○	3		3			共同	
		学校実践実習 B	2後 III	3					○	3		3			共同	
		先進校実習	1後 IV		1				○	3		3			集中 共同	
	授業 実践 力 向上 実践 科目	授業参加インターンシップ	1通	4					○	2	3	1			共同	
		授業実践実習 A	2前 I	3					○	2	3	1			共同	
		授業実践実習 B	2後 III	3					○	2	3	1			共同	
		小規模校実習	1後 IV		1				○	2	3	2			集中 共同	
小計 (8科目)		—	20	2	0	—			5	3	4	0	0			
合計 (41科目)		—	54	34	0	—			7	3	4	0	0	兼14		
学位又は称号		教職修士 (専門職)		学位又は学科の分野				教員養成関係								

教育課程等の概要（事前伺い）

（教育学研究科学校教育専攻）

【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通専攻科目	学校教育総論	1後	2			○			3	3					
	学校心理学総論	1前	2			○			3	1					
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			6	4					
専門に関する科目	教育学特論AⅠ	1前	2			○				1					
	教育学特論AⅡ	1後	2			○				1					
	教育学特別演習A	1・2	2				○			1					
	教育学特論BⅠ	1前	2			○				1					
	教育学特論BⅡ	1後	2			○				1					
	教育学特別演習B	1・2	2				○			1					
	教育学特論CⅠ	1前	2			○				1					
	教育学特論CⅡ	1後	2			○				1					
	教育学特別演習C	1・2	2				○			1					
	教育学特論DⅠ	1前	2			○			1						
	教育学特論DⅡ	1後	2			○				1					
	教育学特別演習D	1・2	2				○			1					
	教育心理学特論A	1後	2			○				1					
	教育心理学特別演習A	1・2前	2				○			1					
	教育心理学特論B	1前	2			○				1					
	教育心理学特別演習B	1・2後	2				○			1					
	心理教育的アセスメント研究	1・2前	2				○		2						
	発達心理学特論B	1後	2			○				1					
	教育臨床心理学特論	1前	2			○				1					
	教育臨床心理学特別演習	1・2前	2				○			1					
	発達支援情報処理研究	1・2前	2				○		1						
	臨床認知心理学特論	1後	2			○				1					
	学習指導心理学研究	1・2後	2				○		1						
	教育相談研究	1・2後	2				○			1					
	発達心理学特論A	1	2			○								兼1	集中
	カウンセリング特論	1前	2			○								兼1	集中
	発達支援教育心理学特論	1	2			○								兼1	
	発達臨床心理特論	1	2			○								兼1	
	発達臨床心理特別研究	1・2前	2				○							兼1	
	実践教育心理学研究	1・2	2				○							兼1	
	発達相談研究	1・2	2				○							兼1	
	特別支援教育特論A	1前	2			○			1						
	特別支援教育特論B	1後	2			○				1					
	障害児教育学特別演習	1・2後	2				○			1					
特別支援教育心理学特論	1後	2			○								兼1		
特別支援教育センターコーディネーター特論A	1前	2			○								兼1		
障害児心理学特別演習	1・2前	2				○							兼1		
特別支援教育臨床学特論	1前	2			○			1							
特別支援教育センターコーディネーター特論B	1後	2			○				1						
障害児臨床学特別演習	1・2前	2				○			1						
特別支援教育自立支援特論	1前	2			○				1						
特別支援教育センターコーディネーター特論C	1前	2			○				1						
特別支援教育福祉学特別演習	1・2前	2				○			1						
特別支援教育医学特論	1	2			○								兼1	集中	
特別支援教育センターコーディネーター特論D	1・2	2			○								兼1	集中	
特別支援教育臨床研究プロジェクト	1・2後	2				○			1					集中	
特別支援地域連携研究	1・2後	2				○		1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門に関する科目	特別支援学校実践研究	1・2後		2			○		1							集中
	障害児行動学特論	1前		2		○									兼1	集中
	障害児社会関係特論	1前		2		○									兼1	集中
	学習障害児指導法特論	1後		2		○			1						兼1	集中
	教育臨床病理学特論	1・2		2		○									兼1	
	発達障害支援特論	1・2後		2		○					1					
	特別支援教育発達障害学特別演習	1・2前		2			○				1					
	初等国語科教育特論	1後		2		○			1							
	中等国語科教育特論	1後		2		○			1							
	中等国語科教材論	1前		2		○			1							
	中等国語科授業研究	1・2前		2			○		1							
	国語学特論	1前		2		○				1						
	国語学特別演習	1・2後		2			○			1						
	日本文学特論A	1前		2		○				1						
	日本文学特別演習A	1・2後		2			○			1						
	日本文学特論B	1前		2		○			1							
	日本文学特別演習B	1・2後		2			○		1							
	日本語教育特論A	1前		2		○									兼1	
	日本語教育特論B	1後		2		○									兼1	
	初等社会科教育特論	1後		2		○				1						
	中等社会・地歴科教育特論	1前		2		○				1						
	中等社会・公民科教育特論	1後		2		○				1						
	日本史特論	1後		2		○			1							
	日本史特別演習	1・2前		2			○		1							
	世界史特論	1後		2		○			1							
	世界史特別演習	1・2前		2			○		1							
	人文地理学特論A	1後		2		○				1						
	人文地理学特別演習A	1・2前		2			○			1						
	社会科特論(小)	1後		2		○			1							
	人文地理学特論B	1前		2		○			1							
	人文地理学特別演習B	1・2後		2			○		1							
	政治学特論	1後		2		○			1							
	政治学特別演習	1・2前		2			○		1							
	社会学特論	1前		2		○				1						
	社会学特別演習	1・2後		2			○			1						
	哲学特論	1後		2		○				1						
	哲学特別演習	1・2前		2			○			1						
	算数科教育特論	1前		2		○									兼1	
	数学科教育特論	1前		2		○									兼1	
	数学科教材論	1前		2		○									兼1	
	数学科授業研究	1・2前		2			○								兼1	集中
	代数学特論A	1前		2		○				1						
	代数学特別演習A	1・2後		2			○			1						
	代数学特論B	1前		2		○			1							
	代数学特別演習B	1・2後		2			○		1							
	幾何学特論	1前		2		○				1						
幾何学特別演習	1・2後		2			○			1							
応用解析学特論	1前		2		○				1							
応用解析学特別演習	1・2後		2			○			1							
初等理科教育特論	1前		2		○									兼2	集中	
中等理科教育特論	1後		2		○									兼2		
電磁気学特論	1前		2		○			1								
電磁気学特別演習	1・2後		2			○		1								
量子力学特論	1前		2		○			1								
量子力学特別演習	1・2後		2			○		1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
専門に関する科目	有機化学特論	1 前		2		○				1									
	有機化学特別演習	1・2 後		2			○			1								集中	
	有機化学特別実験	1・2		2				○		1									
	無機化学特論A	1 後		2		○												兼1	
	無機化学特別演習A	1・2 前		2			○											兼1	
	無機化学特別実験	1・2		2					○										兼1
	無機化学特論B	1 後		2		○				1									
	動物生態学特論	1 前		2		○				1									
	動物生態学特別演習	1・2 後		2			○			1									
	動物生理学特論	1 後		2		○					1								
	動物生理学特別演習	1・2 前		2			○				1								
	植物分子育種学特論	1 前		2		○					1								
	植物分子育種学特別演習	1・2 後		2			○				1								
	天文学特論 (小)	1 前		2		○				1									
	天文学特論	1 前		2		○				1									
	古環境学特論	1 前		2		○				1									
	古環境学特別演習	1・2 後		2			○			1									
	電子工学特論	1 前		2		○				1									
	電子工学特別演習	1・2 後		2			○			1									
	初等音楽科教育特論	1 前		2		○					1								
	初等音楽科教材論	1 後		2		○				1									
	中等音楽科教育特論	1 前		2		○				1									
	中等音楽科教材論	1 後		2		○					1								
	器楽特論	1 前		2		○				1									
	器楽特別演習	1・2		2			○			1									
	管楽器特論	1 後		2		○					1								
	管楽器特別演習	1・2		2			○				1								
	声楽特論	1 前		2		○				1									
	声楽特別演習	1・2		2			○			1									
	作曲法特論	1 前		2		○													兼1
	音楽学特論	1 後		2		○													兼1
	乳幼児造形教育特論	1 前		2		○					1								
	図画工作科教育特論	1 後		2		○					1								
	美術科教育特論	1 前		2		○				1									
	美術科教材論	1 後		2		○				1									
	絵画特別研究	1・2 前		2				○		1									
	絵画特別演習	1・2 前		2				○		1									
	造形特別演習A (幼小)	1・2 前		2				○		1									
	彫刻特別演習	1・2 後		2				○		1									
	デザイン特別研究	1・2 後		2				○		1									
	デザイン特別演習	1・2		2				○		1									
	造形特別演習B (幼小)	1・2 前		2				○		1									
	工芸特別演習	1・2 前		2				○		1									
	美術理論・美術史特論	1 前		2		○					1								
	美術理論・美術史特別演習	1・2 前		2			○				1								
	体育科教育特論	1 前		2		○				1									
	体育科教材論	1 後		2		○				1									
保健体育科教育特論	1 前		2		○				1										
保健体育科教材論	1 後		2		○				1										
体育学特論A	1 前		2		○					1									
体育学特別演習A	1・2 後		2			○				1									
体育学特論B	1 後		2		○					1									
体育学特別演習B	1・2 前		2			○				1									
体育学特論C (幼小)	1 前		2		○				1										
体育学特別演習C	1・2 後		2			○			1										
運動学特論	1 前		2		○				1										
運動学特別演習	1・2 後		2			○			1										
健康科学特論	1 前		2		○				1										

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門に関する科目	健康科学特別演習(幼小)	1・2後		2				○		1						
	初等家庭科教育特論	1前		2		○				1						
	中等家庭科教育特論	1前		2		○				1						
	中等家庭科教材論	1前		2		○				1						
	中等家庭科授業研究	1・2後		2				○		1						
	食物学特論	1前		2		○				1						
	家庭科特論(小)	1前		2		○				1						
	被服学特論	1後		2		○				1						
	被服学特別演習	1・2前		2				○		1						
	住居学特論	1前		2		○				1						
	住居学特別演習	1・2後		2				○		1						
	保育学特論	1前		2		○				1						
	家族関係学特論	1前		2		○					1					
	家族関係学特別演習	1・2後		2				○			1					
	英語科教育特論	1前		2		○				1						
	英語科教材論	1前		2		○					1					
	英語科授業研究	1・2後		2				○		1						
	英語学特論A	1前		2		○					1					
	英語学特別演習A	1・2後		2				○			1					
	英語学特論B	1後		2		○					1					
	英語学特別演習B	1・2前		2				○			1					
	英米文学特論	1前		2		○				1						
	英米文学特別演習	1・2後		2				○		1						
小学校英語教育特論	1後		2		○					1						
ヨーロッパ文学特論A	1後		2		○				1							
ヨーロッパ文学特論C	1後		2		○										兼1	
ヨーロッパ文学特論D	1後		2		○										兼1	
	小計(187科目)	—	0	374	0			—		39	27	1				兼19
実践的科目	教職実践研究A	1前	2					○			1					
	教職実践研究B	1後	2					○			1					
	教職実践研究C	2	2					○			1					
	小計(3科目)	—	4	2	0			—			3					
課題研究	課題研究	1・2	4				○		39							兼1
	合計(192科目)	—	12	376	0			—		39	27	1				兼19
学位又は称号	修士(教育学)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係										

授 業 科 目 の 概 要 (教育学研究科教職開発専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 攻 共 通 基 礎 科 目	教育課程における今日的課題	この授業では、学習指導要領改訂の基本的な考え方への理解を深めるとともに、教科や学校種に分かれて理解を深め、今後重要となってくる教科を横断あるいは統合した教育内容の実践を理解する。 (オムニバス方式/全15回) (24 二宮衆一/4回) 学習指導要領改訂の基本的な方向性①～④ (16 藤本禎男・28 岩野清美・4 木村憲喜/6回) (共同) 学校段階の教育課程の基本的な枠組み①② 各教科の当該学校段階の各学年の改訂内容 各教科の当該学校段階全体の改訂内容 各教科の全学校段階の改訂内容 各教科の関連教科の改訂内容 (27 尾上利美/3回) 小学校における英語教育一概要 小学校における教科としての英語 小学校における活動としての英語 (24 二宮衆一・16 藤本禎男・28 岩野清美・4 木村憲喜・ 27 尾上利美/2回) (共同) グループディスカッション、まとめ	オムニバス方式・共同 (一部)
	教育課程における今日的課題 (特別支援教育)	本授業では、特別支援学校学習指導要領に関する理解を深め、主に知的障害特別支援学校における教科学習、教科・領域を合わせた指導(日常生活の指導、生活単元学習、作業学習)、自立活動、キャリア教育に関する教育内容について実地指導を行う。また、視覚障害特別支援学校、聴覚障害、特別支援学校での実地指導によって、それぞれ単一の障害のある児童生徒の教育課程を踏まえた上で重複障害のある児童生徒の教育課程について学ぶ。さらに、知的障害や発達障害のある生徒を対象に柔軟な教育課程を編成している学校実践の事例について実地指導を通して学び、そこの教育課程や教育内容について理解を深める。 (21 山崎由可里・25 古井克憲/15回) (共同) また、本授業には特別支援教育の分野で高い実践力を有する退職教諭を指導補助教員として配置する。	共同
	教材研究における今日的課題	この授業では、教材研究の基本的な考え方への理解を深めるとともに、教科や学校種に分かれて各教科の課題となっている事項や各教科で共通するICTなどの活用を理解する。それをもとに、教材研究を実施し、その成果を指導案としてまとめることにより、実践力を向上させる。また、小学校及び小規模中学校における教科の垣根を越えた授業研究を効果的に行う基礎となることを目的とし、各教科の教材研究の理念や方法の比較等も行うことで、教材研究についての理解を深める。 (オムニバス方式/全15回) (16 藤本禎男/2回) 教材研究の現代的視点①② (2 豊田充崇/3回) 教材研究の現代的視点③～⑤ (16 藤本禎男・28 岩野清美・4 木村憲喜・ 27 尾上利美/6回) (共同) 教材研究①② 教材研究実践①～④ (9 岡崎 裕/4回) 地域関連教材①～③ まとめ	オムニバス方式・共同 (一部)
	教材研究における今日的課題 (特別支援教育)	本授業では、本学の附属特別支援学校において実施し、同校における教育内容との連携を図りながら、教材利用の計画と実践、及び効果の検証を行う。具体的には、(1)各教科(合科を含む)、(2)特別活動、(3)交流及び共同学習、(4)コミュニケーションの4つの区分で授業研究を展開する。特にICTやAACの新しい教育技術を積極的に取り入れ、重度障害児の活動への参加を向上させる授業づくりを目指す。授業研究の成果はまとめの発表で公開し、改善に向けて議論を深める。 (19 江田裕介・6 竹澤大史/15回) (共同) また、本授業には特別支援教育の分野で高い実践力を有する退職教諭を指導補助教員として配置する。	共同

専 攻 共 通 基 礎 科 目	問題行動と保護者との連携	個別問題行動について、その特徴を理解し、事例に対して、問題行動の指導における加害ならびに被害の児童生徒の保護者の心情および家庭の背景を理解し、保護者と連携して適切に支援する方法をディスカッションし、ロールプレイングなどを行う。学級や学校全体の保護者に適切に説明責任を果たす方法を検討する。 (8 衣斐哲臣・10 谷尻治/15回) (共同)	共同
	学校と家庭との連携 (特別支援教育)	本授業では、特別支援教育における学校と家庭との連携について、障害受容と保護者支援、医療的ケアの必要な児童生徒への保護者のニーズとその支援、通常の学級に在籍する発達障害のある児童生徒の保護者支援のあり方、知的障害や難病の児童生徒の保護者への支援に関する事例研究や、文献研究などを通して検討する。合理的配慮に関する合意形成、学級の児童生徒や保護者への障害説明なども含め、学校と家庭との連携のあり方について協議・検討する。 (7 武田鉄郎・6 竹澤大史・8 衣斐哲臣/15回) (共同)	共同
	特別支援教育と体制	特別支援教育および関連事項に関する理論的・実践的な事項を取り上げ、特別支援教育への理解を深める。また、児童・生徒の学習権保障に寄与する学校・教師・関連機関の役割と現状、課題について検討する。 (オムニバス方式/全15回) (21 山崎由可里/3回) 特別支援教育のあゆみと理念 特別支援教育の制度 特別支援教育フィールドワーク① (25 古井克憲/4回) 障害の基礎的理解①② 通常の学校におけるコーディネーターの役割 特別支援教育をすすめるための学校体制づくり (19 江田裕介/2回) 発達障害児の学校生活上での課題 発達障害児の学校生活上での指導上の留意点 (7 武田鉄郎/3回) 二次障害に関する理解と対応 二次障害と関連機関との連携 特別支援教育フィールドワーク② (21 山崎由可里・25 古井克憲・19 江田裕介・7 武田鉄郎/3回) (共同) オリエンテーション 通常の学校で特別支援教育をすすめるための課題 総括	オムニバス方式・共同 (一部)
	子どもの権利	子どもの権利条約は国際条約として締約国では基本法的性格を持つが、日本では虐待や体罰、いじめ問題等の現状にも見られるように、この条約の規定は未だ十分に尊重・確保されているとはいえない。そこで本授業では、まず近代教育の文脈を通して子どもの権利概念を把握し、次に子どもの権利条約の理念と基本的枠組み、子どもの権利基盤型アプローチについて理解・認識を深める。そしてこれらに基づいて、子どもの権利にかかわる今日的課題の分析とその取組みの実践について理解し、自らの学校教育の在り方について考察する。また、これら授業の中では、日本の自治体や韓国その他の諸外国の先進的な事例をできる限り取り上げ検討する。 (22 越野章史・34 海堀 崇・8 衣斐哲臣/15回) (共同)	共同
	学習過程と評価	「教育評価」という言葉は、通知表やテストなどを連想させ、子どもを苦しめるものというイメージを抱かれがちである。この授業では、教育評価に内在する発達観・能力観に焦点をあてながら、教育評価のさまざまな方法を知ることを通して、子どもの学びをとらえて授業に生かす教育評価とはどうあるべきか、実践的に考えていく。 (23 谷口知美・16 藤本禎男/15回) (共同)	共同
専 攻 共 通 深 化 科 目	能動的学習の実践的研究 (ICTを含む)	能動的な学習の目指すところの理論を理解し、知識定着・確認型、問題発見型、体験型、調査型、課題探究型などさまざまな手法の具体的事例を通して、子どもの学びをトレースし、目的と手法の関係性を学ぶ。また、授業計画を立て、検討する。 (9 岡崎 裕・2 豊田充崇/15回) (共同)	共同
	自立活動 (特別支援教育)	本授業では、「自立活動」が成立するまでの歴史、その理念と基礎概念を概説するとともに、「自立活動」の指導を具現する上で不可欠な「個別の指導計画」や指導方法、関連する教科・領域、関連機関との連携などについて講述する。また、8回目以降では、特別支援学校や特別支援学級での授業研究の他、適宜ゲストスピーカーによる講話を取り入れる。 (7 武田鉄郎・21 山崎由可里・29 上野智子・26 菅 道子/15回) (共同)	共同

専 攻 共 通 深 化 科 目	道徳教育（小）	1. 子どもたちがよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うための道徳教育実践のあり方を道徳科及び学校の教育活動全体を通じた道徳教育の2つの側面から論じる。 2. 『私たちの道徳』及び様々な教材を活用した道徳の授業における実践について、具体的な事例研究をもとに理解を深める。 (31 杉中康平・13 坂本善光/15回) (共同)	共同	
	道徳教育（中）	1. 子どもたちがよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うための道徳教育実践のあり方を道徳科及び学校の教育活動全体を通じた道徳教育の2つの側面から論じる。 2. 『私たちの道徳』及び様々な教材を活用した道徳の授業における実践について、具体的な事例研究をもとに理解を深める。 (31 杉中康平・13 坂本善光/15回) (共同)	共同	
	特別活動	1. 小・中学校における特別活動の実践事例を取り上げ、合意形成に向けた話し合い活動及び意思決定につながる具体的な指導の方法を学ぶ。 2. 実際の指導案や実践事例から、家庭・地域・関係諸機関との連携の在り方や指導におけるポイント・課題を学ぶ。 3. 特別活動の今日的課題を理解し、教育課程全体での取組み方を検討する。 (12 中山真弘・5 宮橋小百合/15回) (共同)	共同	
	生徒指導と体制	「生徒指導提要」を用いて意義や原理について理解を深める。個別問題行動について、その特徴を理解し、現任校の事例をあげて、問題行動をする子どもの気持ちを理解し、学校全体で連携して適切に支援する方法をディスカッションし、ロールプレイングなどを実際に行う。また、予防や育成という観点からの指導についてもディスカッションし、ロールプレイングなどを実際に行う。 (10 谷尻治・8 衣斐哲臣・12 中山真弘/15回) (共同)	共同	
	学校・学級経営Ⅰ	1. 制度としての学級の位置づけ、学級経営の基盤としての集団づくりの指導の筋道について実践的に学ぶ。 2. 学級経営実践に必要な具体的な指導内容についてロールプレイングなどを交えながら実践的指導力を修得させる。 (10 谷尻 治・5 宮橋小百合・17 船越 勝/15回) (共同)	共同	
	学校・学級経営Ⅱ	1. より熟達した教師になるための学級経営の理論と方法を学ぶ。 2. 学級経営実践に必要な具体的な指導のあり方を深めるために、毎回、実践例をもとに、ロールプレイングなどを交えながら自分が担任になったつもりで課題解決の方策を探る。 (10 谷尻 治・5 宮橋小百合・17 船越 勝/15回) (共同)	共同	
	学校・学級経営（特別支援教育）	本授業では、特別支援学校の運営・学級経営について学ぶ。おもに知的障害・発達障害のある児童生徒を対象とした特別支援学校において、小学部・中学部・高等部における子どもの発達に即した児童生徒の理解を深めるとともに、各々の学部での学級経営について実態観察を行い、学校現場の教員を交えた協議を通して学習する。 (7 武田鉄郎・25 古井克憲/15回) (共同) また、本授業には特別支援教育の分野で高い実践力を有する退職教諭を指導補助教員として配置する。	共同	
	和歌山における家庭・地域と連携した学校づくり	これまで和歌山大学や大学教員がかかわってきた教育実践のなかから、優れた教育実践を行っている学校を訪問し、見学やインタビューなどを通してその実践内容を直接学ぶ。また、討論を行い、自分自身や現任校に活かす方法を考える。 (9 岡崎 裕・14 西浦民子/15回) (共同)	共同	
	コ ー ス 専 門 科 目	学校と法	社会における学校の役割をテキストなどで確認し、その上で、現在学校に対して何が期待されているのかをディスカッションなどを通じて理解する。学校の管理運営について現行法上の規定を確実に習得し、各テーマにおいて典型的な事例を取り上げ、グループ討論などを行う。 (1 添田久美子・13 坂本善光/15回) (共同)	共同
		学校組織と経営	「学校組織を育てる」という意識を向上させ、学校の組織特性を理解し、学校に適した組織マネジメントとはいかなるものであるのか、グラウンドデザイン、学校経営案の設計方法、検証システムのデザイン方法の基礎を修得する。 また、本授業には学校経営において高い実践力を有する退職校長を指導補助教員として配置する。	
教育と福祉の連携		事例報告などにより貧困や虐待など、子どもの置かれている環境について理解を深める。地域の福祉機関、団体、NPOなどの活動を行っている人から制度や役割の説明を受け、連携の事例や可能性を検討する。現任校の事例などを挙げて支援のためのネットワークの在り方を討論する。 (1 添田久美子・8 衣斐哲臣・10 谷尻 治/15回) (共同)	共同	

教育課程編成の理論と実践 (カリキュラムマネジメントを含む)	この授業では、教育課程に関する基本原理やカリキュラム・マネジメントの基本的知識を理解し、教育課程開発を行うための素養を身につける。また、日本における教育課程の歴史の変遷や諸外国におけるカリキュラム改革の動向、カリキュラムの社会学の知見を学ぶことを通して、現在の日本の教育課程を俯瞰する視点を獲得する。 (24 二宮衆一・16 藤本禎男/15回) (共同)	共同
授業研究の理論と実践	教師の成長・発達の筋道をライフコースやライフヒストリー研究にもとづき理解すると共に、反省的実践家として学び続ける教師を目指す。また、教師の専門性の核をなす授業づくりの力を解明し、その育成を支えるために、授業研究におけるこれまでの成果について学び、最新の授業研究の理論と方法を理解し、効果的な検討会を行える力を身につける。 (24 二宮衆一・16 藤本禎男・9 岡崎 裕/15回) (共同)	共同
若手校内研修への支援	初任者等若手教員の課題を理解し、若手教員が「理解でき、消化できる」指導と支援を習得する。実際に7回～13回目の講義では、ビデオで指導・支援の方法を理解し、ロールプレイなどで実践する。さらに、実際の授業参観、カンファレンスを行い、経験を積む。 (1 添田久美子・2 豊田充崇・5 宮橋小百合・10 谷尻 治・12 中山真弘・11 須佐 宏/15回) (共同)	共同
小規模校支援	まず、附属小学校における複式学級指導法の研究についてその経過や県内学校との共同研究について取り上げる。その後、主として和歌山県内の具体的な学校を取り上げ、その特色ある授業実践やカリキュラム等を通して、学校研究を行う。また、学校教育現場への調査活動も実施する。 (2 豊田充崇・14 西浦民子/15回) (共同)	共同
学校安全と危機管理	裁判事例などから学校に求められている安全確保と危機管理のレベルを確認し、現任校の体制の点検を行う。また、自ら危険を察知し安全を図ることができる児童生徒を育成する安全教育を考える。 (1 添田久美子・14 西浦民子・12 中山真弘/15回) (共同)	共同
基礎基本学習指導方法	国際的な学力調査や全国学力・学習状況調査、体力・運動能力調査などをもとに実態を学ぶとともに、基礎・基本の充実のための指導計画や学習過程を構成し、子どもの実態に応じた有効な教材開発をする。PDCAサイクルの実施計画を立てる。模擬授業、協力校見学などを含む。 (15 深澤英雄・20 林 修/15回) (共同)	共同
授業・教材研究Ⅰ	児童・生徒の成長・発達と創造的な学力を保障する授業実践におけるすぐれた指導技術を遂行するために、授業設計の方法、授業展開の方法、授業分析の方法、授業評価の方法、授業改善の方法を理解し、高度な授業実践の計画的・組織的な実践力を培う。 (2 豊田充崇・5 宮橋小百合・10 谷尻 治・12 中山真弘・11 須佐 宏/15回) (共同)	共同
授業・教材研究Ⅱ	学校における現代的な教育課題や育てる児童生徒像に照らした学習指導における単元構想と教材研究に関する理論および方法・技能を習得し、その理論や技能等を用いた効果的な授業デザインができることを目標とする。また、自らが設定した実践課題や実習に即した素材・教材の検討を行い、その成果を活かした単元計画・学習指導案等をまとめることを通して、教材開発・授業設計を行う能力を培う。 (2 豊田充崇・5 宮橋小百合・10 谷尻 治・12 中山真弘・11 須佐 宏/15回) (共同)	共同
授業・教材研究Ⅲ	学校における児童生徒の実態を分析し、その状況に応じた学習指導における単元構想と教材研究に関する理論および方法・技能を習得し、その理論や技能等を用いた効果的な授業デザインができることを目標とする。また、全学年を通してその単元構成と児童生徒に付けさせたい力との関係を明らかにするとともに、数種類の教科書会社の教科書を比較検討することにより、子どもの実態に応じた授業づくり、教材開発・授業設計を行う能力を培う。 (2 豊田充崇・5 宮橋小百合・10 谷尻 治・12 中山真弘・11 須佐 宏/15回) (共同)	共同
理科実験(小)	毎回、理科実験室を使用し、院生は児童・生徒の立場に立って、実験器具の説明や示範授業を受ける。その後、取り扱いや実験手順の背景にある専門的知識を理解し、自らが指導するに当たって、どのような点に工夫や配慮が必要であるかを検討する。 (4 木村憲喜・12 中山真弘/15回) (共同)	共同

コ
ー
ス
専
門
科
目

理科実験(中・高)	毎回、理科実験室を使用し、院生は児童・生徒の立場に立って、実験器具の説明や示範授業を受ける。その後、取り扱いや実験手順の背景にある専門的知識を理解し、自らが指導するに当たって、どのような点に工夫や配慮が必要であるかを検討する。また、学校における科学実験の在り方について考える。 (4 木村憲喜・12 中山真弘/15回) (共同)	共同
理科教材開発(中・高)	「美と科学」、「食と科学」、「生活と科学」のテーマごとに、示範授業、関連知識の確認、院生による実験の提案とその省察を行う。 (4 木村憲喜・12 中山真弘/15回) (共同)	共同
探究のための教材開発—水	1～5回「水の性質」、6～9回「特性と工学的利用」、10～11回「水と生命環境」、12～14回「芸術における水利用」をサブテーマとする。実験や体験で得た知識をディスカッションをとおして深化させる。 (4 木村憲喜・33 貴志年秀・18 寺川剛央/15回) (共同)	共同
探究のための教材開発—光	1～5回「光の正体」、6～10回「光と宇宙」、11～15回「光と社会」をサブテーマとする。実験や体験で得た知識をディスカッションをとおして深化させる。 (3 富田晃彦・33 貴志年秀/15回) (共同)	共同
探究のための教材開発—米	1～3、14回「植物としてのコメ」、4～5回「コメの栽培」、6～10回「コメと環境」、11～13回「コメと環境」をサブテーマとする。実験や体験で得た知識をディスカッションをとおして深化させる。 (3 富田晃彦・33 貴志年秀・30 荒木良一/15回) (共同)	共同
探究のための教材開発—宇宙	本授業では、宇宙の大きさを簡単な計算や作図で把握する手法を題材に、算数の力や他教科・領域との接続性を再認識させる教科横断の単元開発を目的とする。各題材について、院生が、児童・生徒として実際に題材に取組み、その後、学校における授業として実践する場合の課題や留意点について検討を行う。 (3 富田晃彦・16 藤本禎男/15回) (共同)	共同
探究のための教材開発—統計を使った店舗戦略	本授業では、日常的に利用しているコンビニを題材として、統計的手法を実際に用いて分析を行い、数学的な知識・考え方をもとにして、教科横断の単元開発を目的とする。①指導案をもとに示範授業、②教材の理解、③実践における課題の検討、④発展教材の開発の手順で授業を行う。 (16 藤本禎男・1 添田久美子/15回) (共同)	共同
探究のための教材開発—プログラミング	今後学校教育現場で実践されるプログラミング教育について、各学校種の具体的な事例を通して、その趣旨・到達目標を理解する(特に「プログラミング的思考」についての理解を深める)。演習面では、各種ロボットキットや制御ソフトウェアを通して、その特徴・機能、操作方法を習得し、授業に活用できるようになる。また、プログラミングを利用した地元先進企業の見学等を行う。さらにAIなど身近になった技術を、どのように社会に活かしていくかを考える授業を提案できるようになることを到達点とする。 各回、必要に応じてシステム工学部など学内他学部からの専門教員をゲストスピーカーに招く。特に9回～12回目の講義については、地元先進企業から専門家を招く。	
特別支援教育推進のための関連機関との連携	本授業では、特別支援教育と関連の深い医療、保健、福祉、労働等の機関や施設の実態について、講義と実地指導との組み合わせによって学ぶ。機関の職員をゲストスピーカーとして招く。就学前・学齢期・学校卒業後の各ライフステージによる、保健所での乳幼児検診や親子教室、児童発達支援センターの役割と療育の実際、放課後等デイサービスや発達障害者支援センターにおける発達障害児者や家庭への支援、児童福祉施設と地域の学校との連携、福祉・労働機関での就労などを具体的に取り上げる。さらに、これまで学んだ内容について、特別支援学校での活用可能性、地域連携における特別支援学校の役割、個別の教育支援計画作成への活用について協議する。 (21 山崎由可里・25 古井克憲・8 衣斐哲臣/15回) (共同)	共同
知的障害・発達障害のアセスメントとケーススタディ	本授業では、特別なニーズのある幼児児童生徒、とくに発達障害のある児童生徒を対象とした心理教育的アセスメントを習得する。個別の知能検査及び発達検査(WISC-IV知能検査、DN-CAS 認知評価システム、新版K式発達検査)、心理社会的な適応 / 不適応状態を包括的なアセスメント(ASEBA [Achenbach System of Empirically Based Assessment])等を習得し、知的機能や発達レベルの把握、並びに病気による不適応や発達障害の二次障害などへの対応など、実施した検査結果の分析及び解釈の仕方について、事例を通して演習形式で学習する。また、実施した検査結果の解釈に基づいた指導計画の作成や支援方法の実際について学習する。	

コース専門科目

コ ー ス 専 門 科 目	知的障害児及び発達障害児の学習指導	本授業では、知的障害児と発達障害児の学習課題について、(1)文字の読み書き、(2)計算・推論、(3)コミュニケーション、(4)行動の自己コントロールの4つを取り上げ、それぞれについてケース・スタディを通じて問題を具体的に理解するとともに、要因を的確に把握するためアセスメントの手続きを学ぶ。これらの情報に基づき、効果的な指導の方法を検討し、指導計画の作成へと発展させる。また個別の指導計画の作成にあたり、保護者との連携の在り方を考察する。 (19 江田裕介・6 竹澤大史/15回) (共同) また、本授業には特別支援教育の分野で高い実践力を有する退職教諭を指導補助教員として配置する。	共同
	障害児の生理病理と臨床	本授業では、障害や病気の理解を深めるために、医学的(心理学的な内容を含む)な知識を提供する。その際に、単なる知識ではなく、発達の・教育的なニーズを理解する視点を学び、そのことで支援や配慮・指導への応用ができる内容とする。また、理論的な内容だけではなく、受講者自身が経験する・した事例を基に、ディスカッションを通じて、生理・病理・心理的な視点で事例の理解を深め、教育や指導に生かせる力を熟成する。 また、関連する行政的な知識(福祉関連)や国際的な動向についても、最新の情報を提供する。このことにより、合理的配慮についても、単なる病理・生理・心理の視点だけではなく、総合的な幅広い考え方を身につける。	
	特別支援教育とコンサルテーション	本授業では、乳幼児期、学齢期、思春期・青年期の各ライフステージにおける、とくに知的障害、発達障害のある子どものコンサルテーションについて、講義及び先駆的实践を行うゲストスピーカーの講話も取り入れ学ぶ。さらに、受講生各々が、事例を設定した上でコンサルテーションの提案を行い、発表する。 (7 武田鉄郎・19 江田裕介/15回) (共同) 本授業には特別支援教育の分野で高い実践力を有する退職教諭を指導補助教員として配置する。	共同
	発達障害のある子どもの二次障害の予防と対策	本授業では、二次障害の起因を理解すると同時に、予防方法の理解と実施、ストレス対処能力の向上のための提案・交渉型アプローチの実践を学ぶ。 (7 武田鉄郎・6 竹澤大史/15回) (共同)	共同
	特別支援教育の理念と現代的課題	本授業では、合理的配慮をはじめ、障害者の学習権・教育を受ける権利に関連する諸権利を保障するための学校教育における対応方法を取り上げる。具体的には、授業のユニバーサルデザイン、障害理解教育、交流及び共同学習、個別の教育支援計画作成での合理的配慮の確認方法について事例をもとに検討する。さらに、学校卒業後の就労場面及び生活場面における環境整備や合理的配慮の提供についても取り上げる。 (21 山崎由可里・25 古井克憲/15回) (共同)	共同
実 習 科 目	課題リサーチインターンシップ	①原則として毎週月曜日に、現任校を訪問し、実習を行う。 ②現任校の実態について、学校経営の視点から調査を行う。 ③現任校の改善課題について、校長をはじめ、現任校の教職員と意見交換の上、改善の提案を行う。 ④改善計画立案のための調査、情報収集、意見調整を行う。 (1 添田久美子・8 衣斐哲臣・9 岡崎 裕 14 西浦民子・13 坂本善光・16 藤本禎男/15回) (共同)	共同
	学校実践実習A	・改善計画を学校の年間計画に載せる。 ・同僚教員の理解や協力を得て、実習計画を実施する。 ・3か月にわたり、進捗状況を記録し、実施状況の分析を行う。 (1 添田久美子・8 衣斐哲臣・9 岡崎 裕 14 西浦民子・13 坂本善光・16 藤本禎男/15回) (共同)	共同
	学校実践実習B	・「学校実践実習A」の実施状況について分析を行う。 ・改善計画の修正、変更を行う。 ・同僚教員との調整を行い、実習計画を継続する。 ・3か月にわたり、進捗状況を記録し、省察を行い、その結果を年間計画へフィードバックする。 (1 添田久美子・8 衣斐哲臣・9 岡崎 裕 14 西浦民子・13 坂本善光・16 藤本禎男/15回) (共同)	共同
	先進校実習	・先進校の現状を把握する。 ・学校経営の理念や手法、課題に関する取組について理解する。 ・教職員の意識やモチベーションを分析する。 ・現任校での課題取組計画と比較検討し、改善を図る。 (1 添田久美子・8 衣斐哲臣・9 岡崎 裕 14 西浦民子・13 坂本善光・16 藤本禎男/15回) (共同)	共同

<p>授業参加インターンシップ</p>	<p>①原則として毎週月曜日に、連携協力校を訪問し、実習を行う。 ②子どもの発言や活動を引き出す発問など子どもとのかかわり方を観察する。 ③教員としてのレディネスを形成する。 ④生徒に向き合う、教師としての基本的な姿勢を理解する。 ⑤数多くの授業の参観や補助の活動を通して生徒理解を進める。子どもの発言や活動を引き出す教師の働きかけを学び、授業研究を深める。 ⑥主として指導教員に従い、朝の会、授業、給食、終りの会などを参観、参加する。 ⑦授業にはTT、補助、支援などの形で参加する。 (2 豊田充崇・5 宮橋小百合・10 谷尻 治・12 中山真弘・11 須佐 宏・15 深澤英雄/15回) (共同)</p>	<p>共同</p>
<p>授業実践実習A</p>	<p>・「授業参加インターンシップ」と同じ連携協力校で実施する。 ・事前指導で実習計画を作成する。 ・単元を通じた指導計画を立案し、毎時間の子どもの学びを省察し、次の授業実践において改良する。 ・単元の目標、本時の目標を踏まえた評価を行う。 ・授業以外の業務にも、学校の一員として責任をもって当たる。 ・担任として学級の指導にあたる日を最低週1日設ける。 ・1週間を通して、1学級の授業を連続して指導する。 ・職員会議、校務分掌、委員会などの会議や活動に参加する。 (2 豊田充崇・5 宮橋小百合・10 谷尻 治・12 中山真弘・11 須佐 宏・15 深澤英雄/15回) (共同)</p>	<p>共同</p>
<p>授業実践実習B</p>	<p>・「授業参加インターンシップ」、「授業実践実習A」と同じ連携協力校で実施する。 ・事前指導で実習計画を作成する。 ・道徳、特別活動、総合的な学習の時間など、教科以外の授業や活動において、子どもの実態に応じた指導を行う。 ・学校生活全体を通して、学級を「学びあいの場」として形成する指導の在り方を学ぶ。 ・教職員と円滑なコミュニケーションを取り、連携を図る。 ・学校の一員としての役割を理解し、自ら進んで授業以外の業務に当たる。 ・担任として学級に指導にあたる日を最低週1日設ける。 ・1週間を通して、1学級の授業を連続して指導する。 ・職員会議、校務分掌、委員会などの会議や活動に参加する。 (2 豊田充崇・5 宮橋小百合・10 谷尻 治・12 中山真弘・11 須佐 宏・15 深澤英雄/15回) (共同)</p>	<p>共同</p>
<p>小規模校実習</p>	<p>・事前指導で実習計画を作成する。 ・小規模校ならではの、一人ひとりの子どもへの丁寧な指導や複式学級の運営について実践する。 ・地域と一体となった学校運営を学ぶ。 (2 豊田充崇・5 宮橋小百合・10 谷尻 治・12 中山真弘・11 須佐 宏・15 深澤英雄・13坂本善光/15回) (共同)</p>	<p>共同</p>
<p>課題リサーチインターンシップ(特別支援教育)</p>	<p>i 教職大学院1年次の現職教員を対象に、特別支援学校において実習を行う。 特別支援学校の現職教員は現任校において、特別支援学級等の現職教員については附属特別支援学校において実施する。 ii 原則として毎週月曜(週1回)、実習校を訪問する。 iii 授業や学校行事・校務全般に継続的に関わり、学校における課題の把握と整理を行う。 iv 教職大学院教員・実習校における指導教員(現任校の場合は管理職)との協議を通して、2年次に取り組み自己の実践計画を設定する。 (7 武田鉄郎・6 竹澤大史/15回) (共同)</p>	<p>共同</p>
<p>授業参加インターンシップ(特別支援教育)</p>	<p>i 教職大学院1年次のストレートマスターの学生を対象に、附属特別支援学校において実習を行う。 ii 原則として毎週月曜(週1回)、実習校を訪問する。 iii 授業や学校行事・校務全般に継続的に関わり、学校における課題の把握と整理を行う。 iv 教職大学院教員・実習校における指導教員との協議を通して、2年次に取り組み自己の実践計画を設定する。 (7 武田鉄郎・6 竹澤大史/15回) (共同) また、本実習には特別支援教育の分野で高い実践力を有する退職教諭を指導補助教員として配置する。</p>	<p>共同</p>
<p>学校実践実習A(特別支援教育)</p>	<p>i 教職大学院2年次の現職教員を対象に、現任校(特別支援学校、特別支援学級等)において実習を行う。 ii 原則として90時間、現任校において実施する。 iii 授業や学校行事・校務全般に継続的に関わり、教職大学院教員・実習校における指導教員(現任校の場合は管理職)との協議を通して、実践計画の検討を行う。 (7 武田鉄郎・6 竹澤大史/15回) (共同)</p>	<p>共同</p>

実 習 科 目	授業実践実習A(特別支援教育)	i 教職大学院2年次のストレートマスターを対象に、附属特別支援学校において実習を行う。 ii 原則として1ヶ月間実習校を訪問する。 iii 授業や学校行事・校務全般に継続的に関わり、教職大学院教員・実習校における指導教員(現任校の場合は管理職)との協議を通して、実践計画の検討を行う。 (7 武田鉄郎・6 竹澤大史/15回)(共同)	共同
	学校実践実習B(特別支援教育)	i 教職大学院2年次の現職教員を対象に、現任校(特別支援学校、特別支援学級等)において実習を行う。 ii 原則として90時間、現任校において実施する。 iii 授業や学校行事・校務全般に継続的に関わり、教職大学院教員・実習校における指導教員(現任校の場合は管理職)との協議を通して、実践計画の検討を行い、修了報告書を作成する。 (7 武田鉄郎・6 竹澤大史/15回)(共同)	共同
	授業実践実習B(特別支援教育)	i 教職大学院2年次のストレートマスターを対象に、附属特別支援学校において実習を行う。 ii 原則として1ヶ月間実習校を訪問する。 iii 授業や学校行事・校務全般に継続的に関わり、教職大学院教員・実習校における指導教員(現任校の場合は管理職)との協議を通して、実践計画の省察を行い、修了報告書を作成する。 (7 武田鉄郎・6 竹澤大史/15回)(共同)	共同
実 習 関 連 科 目	課題分析 ※学校改善マネジメントコース対象	毎週1回、「課題リサーチインターンシップ」の報告を行い、現任校で取り組むにあたっての、課題としての適切性、計画性を検討する。また、課題に対する先行事例の研究を行う。それをもとに、2年次に取り組む現任校「改善計画」(教職実践研究報告書)の立案を行う。 (1 添田久美子・8 衣斐哲臣・9 岡崎 裕・14 西浦民子・13 坂本善光・16 藤本禎男/15回)(共同)	共同
	課題分析 ※授業実践力向上コース対象	毎週1回、実習校における「授業参加インターンシップ」の報告を行い、実習校の実態について理解を深める。また、自己の教師としての成長課題を見つけ、それに取り組む方法について検討を行い、自己の「学習計画」(教職実践研究報告書)を作成する。 (2 豊田充崇・10 谷尻 治・5 宮橋小百合・11 須佐 宏・12 中山真弘・15 深澤英雄・4 木村憲喜・3 富田晃彦/15回)(共同)	共同
	課題分析 ※スペシャリストコース対象	毎週1回、「課題リサーチインターンシップ」の報告を行い、現任校で取り組むにあたっての、課題としての適切性、計画性を検討する。また、課題に対する先行事例の研究を行う。それをもとに、2年次に取り組む現任校「改善計画」(教職実践研究報告書)の立案を行う。 (3 富田晃彦・4 木村憲喜・12 中山真弘・16 藤本禎男/15回)(共同)	共同
	課題分析(特別支援教育)	本授業では、教職大学院の授業である「課題リサーチインターンシップ(特別支援教育)」「授業参加インターンシップ(特別支援教育)」の報告を行い、課題としての適切性・計画性を検討するとともに、課題に対する先行事例の研究(特別支援学校の現職教員の場合)または実習校の実態の分析(ストレートマスター・特別支援学級等の現職教員の場合)を行う。それをもとに、2年次に取り組む「教職実践研究」計画を立案・作成する。 (7 武田鉄郎・6 竹澤大史/15回)(共同)	共同
修 了 研 究 科 目	修了研究 ※学校改善マネジメントコース対象	「学校実践実習A・B」の実施状況をまとめ、分析し、成果と課題を整理する。その成果が他校において実践が可能か、汎用性について検討する。また、その結果は「修了研究報告書」にまとめ、現任校をはじめ学校関係者が参加する「修了研究報告会」において、発表を行う。 (1 添田久美子・8 衣斐哲臣・9 岡崎 裕・14 西浦民子・13 坂本善光・16 藤本禎男/15回)(共同)	共同
	修了研究 ※授業実践力向上コース対象	「授業実践実習A・B」の省察を行い、学びの成果と課題を整理した上で、次の実習に向けての目標を設定する。成果は、「修了研究報告書」(ポートフォリオ)にまとめ、学校関係者が参加する「修了研究報告会」において、発表を行う。 (2 豊田充崇・10 谷尻 治・5 宮橋小百合・11 須佐 宏・12 中山真弘・15 深澤英雄・4 木村憲喜・3 富田晃彦/15回)(共同)	共同
	修了研究 ※スペシャリストコース対象	「学校実践実習A・B」の実施状況をまとめ、分析し、成果と課題を整理する。その成果が他校において実践が可能か、汎用性について検討する。また、その結果は「修了研究報告書」にまとめ、現任校をはじめ学校関係者が参加する「修了研究報告会」において、発表を行う。 (3 富田晃彦・4 木村憲喜・12 中山真弘・16 藤本禎男/15回)(共同)	共同
	修了研究(特別支援教育)	学校実習の省察を行い、学びの成果と課題を整理する。成果は、「修了研究報告書」にまとめ、学校関係者が参加する「修了研究報告会」において発表を行う。 (7 武田鉄郎・6 竹澤大史/15回)(共同)	共同

教 員 の 氏 名 等												
(教育学研究科教職開発専攻)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
1	専	教授 (専攻長)	ソエダ クミコ 添田 久美子 (平成28年4月)		博士 (学術)		学校と法 学校組織と経営 教育と福祉の連携 若手校内研修への支援 学校安全と危機管理 探求のための教材開発-統計を使った店舗戦略 課題リサーチインターンシップ 学校実践実習A 学校実践実習B 先進校実習 課題分析 修了研究	1前I 1前I 1前I 1前II 1後III 1後IV 1通 2前I・II 2後III 1後IV 1通 2通	2 2 2 2 2 2 4 3 3 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	和歌山大学 教育学研究科教授 (平成25年4月)	
2	専	教授	トヨダ ミチタカ 豊田 充崇 (平成28年4月)		修士 (教育学)		教材研究における今日的課題 能動的学習の実践的研究 (ICTを含む) 若手校内研修への支援 小規模校支援 授業・教材研究 I 授業・教材研究 II 授業・教材研究 III 探求のための教材開発-プログラミング 授業参加インターンシップ 授業実践実習A 授業実践実習B 小規模校実習 課題分析 修了研究	1前II 1後III 1前II 1後III 1前II 1後III 1後III 1後IV 1通 2前I 2後III 1後IV 1通 2通	2 2 2 2 2 2 2 2 4 3 3 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	和歌山大学 教育学研究科教授 (平成14年4月)	
3	専	教授	トミタ アキヒコ 富田 晃彦 (平成31年4月)		博士 (理学)		探求のための教材開発-光 探求のための教材開発-米 探求のための教材開発-宇宙 課題分析 課題分析 修了研究 修了研究	1前II 1前II 1後IV 1通 1通 2通 2通	2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	和歌山大学 教育学部教授 (平成14年4月)	
4	専	教授	キムラ ノリヨシ 木村 憲喜 (平成31年4月)		博士 (理学)		教育課程における今日的課題 教材研究における今日的課題 理科実験 (小) 理科実験 (中・高) 理科教材開発 (中・高) 探求のための教材開発-水 課題分析 課題分析 修了研究 修了研究	1前I 1前II 1前I 1前I 1前I 1前II 1通 1通 2通 2通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	和歌山大学 教育学研究科教授 (平成12年4月)	
5	専	准教授	ミヤハシ サユリ 宮橋 小百合 (平成28年4月)		修士 (文学) ※		特別活動 学校・学級経営 I 学校・学級経営 II 若手校内研修への支援 授業・教材研究 I 授業・教材研究 II 授業・教材研究 III 授業参加インターンシップ 授業実践実習A 授業実践実習B 小規模校実習 課題分析 修了研究	1後IV 1前I 2前II 1前II 1前II 1後III 1後III 1通 2前I 2後III 1後IV 1通 2通	2 2 2 2 2 2 2 4 3 3 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	和歌山大学 教育学研究科准教授 (平成28年4月)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
6	専	講師	タケザワ タイシ 竹澤 大史 (平成31年4月)		博士 (教育学)		教材研究における今日的課題 (特別支援教育) 学校と家庭との連携 (特別支援教育) 知的障害児及び発達障害児の学習指導 発達障害のある子どもの二次障害の予防と対策 課題リサーチインターンシップ (特別支援教育) 授業参加インターンシップ (特別支援教育) 学校実践実習A (特別支援教育) 授業実践実習A (特別支援教育) 学校実践実習B (特別支援教育) 授業実践実習B (特別支援教育) 課題分析 (特別支援教育) 修了研究 (特別支援教育)	1前II 1前II 1後IV 1後IV 1通 1通 2前I・II 2前I 2後III 2後III 1通 2通	2 2 2 2 4 4 3 3 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	和歌山大学 教育学部講師 (平成29年10月)	
7	専	教授	タケダ テツロウ 武田 鉄郎 (平成28年4月)		博士 (学術)		学校と家庭との連携 (特別支援教育) 特別支援教育と体制 自立活動 (特別支援教育) 学校・学級経営 (特別支援教育) 知的障害・発達障害のアセスメントとケーススタディ 特別支援教育とコンサルテーション 発達障害のある子どもの二次障害の予防と対策 課題リサーチインターンシップ (特別支援教育) 授業参加インターンシップ (特別支援教育) 学校実践実習A (特別支援教育) 授業実践実習A (特別支援教育) 学校実践実習B (特別支援教育) 授業実践実習B (特別支援教育) 課題分析 (特別支援教育) 修了研究 (特別支援教育)	1前II 1前I 1通年 1前I 1後III 1通 1後IV 1通 2前I・II 2前I 2後III 2後III 1通 2通	2 2 2 2 2 4 4 3 3 3 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	和歌山大学 教育学研究科教授 (平成18年4月)	
8	実専	教授	イビ テツオミ 衣斐 哲臣 (平成28年4月)		文学士		問題行動と保護者との連携 学校と家庭との連携 (特別支援教育) 子どもの権利 生徒指導と体制 教育と福祉の連携 特別支援教育推進のための関連機関との連携 課題リサーチインターンシップ 学校実践実習A 学校実践実習B 先進校実習 課題分析 修了研究	1.2後IV 1前II 1前II 1.2前II 1前I 1後III 1通 2前I・II 2後III 1後IV 1通 2通	2 2 2 2 2 4 3 3 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	和歌山大学 教育学研究科教授 (平成28年4月)	
9	実専	教授	オカザキ ユタカ 岡崎 裕 (平成28年4月)		教育学修士		教材研究における今日的課題 能動的学習の実践的研究 (ICTを含む) 和歌山における家庭・地域と連携した学校づくり 授業研究の理論と実践 課題リサーチインターンシップ 学校実践実習A 学校実践実習B 先進校実習 課題分析 修了研究	1前II 1後III 1後III 1前II 1通 2前I・II 2後III 1後IV 1通 2通	2 2 2 2 4 3 3 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	和歌山大学 教育学研究科教授 (平成28年4月)	
10	実専	教授	タニジリ オサム 谷尻 治 (平成28年4月)		教育学士		問題行動と保護者との連携 生徒指導と体制 学校・学級経営 I 学校・学級経営 II 教育と福祉の連携 若手校内研修への支援 授業・教材研究 I 授業・教材研究 II 授業・教材研究 III 授業参加インターンシップ 授業実践実習A 授業実践実習B 小規模校実習 課題分析 修了研究	1.2後IV 1.2前II 1前I 2前II 1前I 1前II 1前II 1後III 1後III 1通 2前I 2後III 1後IV 1通 2通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 4 3 3 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	和歌山大学 教育学研究科教授 (平成28年4月)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
11	実専	准教授	スサ ヒロシ 須佐 宏 (平成28年4月)		学士 (教育学)		若手校内研修への支援 授業・教材研究 I 授業・教材研究 II 授業・教材研究 III 授業参加インターンシップ 授業実践実習 A 授業実践実習 B 小規模校実習 課題分析 修了研究	1前II 1前II 1後III 1後III 1通 2前I 2後III 1後IV 1通 2通	2 2 2 2 4 3 3 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	和歌山大学 教育学研究科准教授 (平成28年4月)	
12	実専	准教授	ナカヤマ マサヒロ 中山 真弘 (平成28年4月)		修士 (教育学)		特別活動 生徒指導と体制 若手校内研修への支援 学校安全と危機管理 授業・教材研究 I 授業・教材研究 II 授業・教材研究 III 理科実験 (小) 理科実験 (中・高) 理科教材開発 (中・高) 授業参加インターンシップ 授業実践実習 A 授業実践実習 B 小規模校実習 課題分析 課題分析 修了研究 修了研究	1後IV 1.2前II 1前II 1後III 1前II 1後III 1後III 1前I 1前I 1前I 1通 2前I 2後III 1後IV 1通 1通 2通 2通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 4 3 3 1 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	和歌山大学 教育学研究科准教授 (平成28年4月)	
13	実み	講師	サカモト ヨシミツ 坂本 善光 (平成28年4月)		理学士		道徳教育 (小) 道徳教育 (中) 学校と法 課題リサーチインターンシップ 学校実践実習 A 学校実践実習 B 先進校実習 小規模校実習 課題分析 修了研究	1前II 1前II 1前I 1通 2前I・II 2後III 1後IV 1後IV 1通 2通	2 2 2 4 3 3 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	和歌山大学 教育学研究科講師 (平成28年4月)	
14	実み	講師	ニシウラ タミコ 西浦 民子 (平成28年4月)		文学士		和歌山における家庭・地域と連携した学校づくり 小規模校支援 学校安全と危機管理 課題リサーチインターンシップ 学校実践実習 A 学校実践実習 B 先進校実習 課題分析 修了研究	1後III 1後III 1後III 1通 2前I・II 2後III 1後IV 1通 2通	2 2 2 4 3 3 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	和歌山大学 教育学研究科講師 (平成28年4月)	
15	実み	講師	フカザワ ヒデオ 深澤 英雄 (平成28年4月)		農学士 教育学士		基礎基本学習指導方法 授業参加インターンシップ 授業実践実習 A 授業実践実習 B 小規模校実習 課題分析 修了研究	1後III 1通 2前I 2後III 1後IV 1通 2通	2 4 3 3 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1	和歌山大学 教育学研究科講師 (平成28年4月)	
16	実み	講師	フジモト サダオ 藤本 禎男 (平成28年4月)		工学士		教育課程における今日的課題 教材研究における今日的課題 学習過程と評価 教育課程編成の理論と実践 (カリキュラムマネジメントを含む) 授業研究の理論と実践 探求のための教材開発ー宇宙 課題リサーチインターンシップ 学校実践実習 A 学校実践実習 B 先進校実習 課題分析 課題分析 修了研究 修了研究	1前I 1前II 1.2後IV 1前II 1前II 1後IV 1後IV 1通 2前I・II 2後III 1後IV 1通 1通 2通 2通	2 2 2 2 2 2 4 3 3 4 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	和歌山大学 教育学研究科講師 (平成28年4月)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
17	兼任	教授	フナゴシ マサル 船越 勝 (平成28年4月)		教育学 修士 ※		学校・学級経営Ⅰ 学校・学級経営Ⅱ	1前Ⅰ 2前Ⅱ	2 2	1 1	和歌山大学 教育学部教授 (平成28年4月)	
18	兼任	教授 (学部長)	テラカワ タカオ 寺川 剛央 (平成31年4月)		修士 (芸術学)		探求のための教材開発一水	1前Ⅱ	2	1	和歌山大学 教育学部教授 (平成13年4月)	
19	兼任	教授	エダ ユウスケ 江田 裕介 (平成28年4月)		修士 (教育学)		教材研究における今日的課題(特別支援教育) 特別支援教育と体制 知的障害児及び発達障害児の学習指導 特別支援教育とコンサルテーション	1前Ⅱ 1前Ⅰ 1後Ⅳ 1通	2 2 2 2	1 1 1 1	和歌山大学 教育学部教授 (平成9年10月)	
20	兼任	教授	ハヤシ オサム 林 修 (平成28年4月)		修士 (学校教育学)		基礎基本学習指導方法	1後Ⅲ	2	1	和歌山大学 教育学部教授 (平成24年4月)	
21	兼任	教授	ヤマザキ(イトウ) ユカリ 山崎(伊藤) 由可里 (平成28年4月)		博士 (教育学)		教育課程における今日的課題(特別支援教育) 特別支援教育と体制 自立活動(特別支援教育) 特別支援教育推進のための関連機関との連携 特別支援教育の理念と現代的課題	1後Ⅳ 1前Ⅰ 1通年 1後Ⅲ 1前Ⅰ	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	和歌山大学 教育学部教授 (平成11年11月)	
22	兼任	准教授	コシノ(ナツボリ) ショウジ 越野(夏堀) 章史 (平成28年4月)		修士 (教育学) ※		子どもの権利	1前Ⅱ	2	1	和歌山大学 教育学部准教授 (平成15年10月)	
23	兼任	准教授	タニグチ トモミ 谷口 知美 (平成28年4月)		修士 (教育学) ※		学習過程と評価	1.2後Ⅳ	2	1	和歌山大学 教育学部准教授 (平成22年4月)	
24	兼任	准教授	ニノミヤ シュウイチ 二宮 衆一 (平成28年4月)		修士 (教育学)		教育課程における今日的課題 教育課程編成の理論と実践 (カリキュラムマネジメントを含む) 授業研究の理論と実践	1前Ⅰ 1前Ⅱ 1前Ⅱ	2 2 2	1 1 1	和歌山大学 教育学部准教授 (平成21年10月)	
25	兼任	准教授	フルイ カツノリ 古井 克憲 (平成28年4月)		博士 (社会福祉学)		教育課程における今日的課題(特別支援教育) 特別支援教育と体制 学校・学級経営(特別支援教育) 特別支援教育推進のための関連機関との連携 特別支援教育の理念と現代的課題	1後Ⅳ 1前Ⅰ 1前Ⅰ 1後Ⅲ 1前Ⅰ	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	和歌山大学 教育学部准教授 (平成21年4月)	
26	兼任	教授	カン ミチコ 菅 道子 (平成28年4月)		修士 (人文科学)		自立活動(特別支援教育)	1通年	2	1	和歌山大学 教育学部教授 (平成11年4月)	
27	兼任	准教授	オノエ(タナカ) トシミ 尾上(田中) 利美 (平成28年4月)		博士 (文学)		教育課程における今日的課題 教材研究における今日的課題	1前Ⅰ 1前Ⅱ	2 2	1 1	和歌山大学 教育学部准教授 (平成21年4月)	
28	兼任	准教授	イワノ キヨミ 岩野 清美 (平成31年4月)		修士 (教育学)		教育課程における今日的課題 教材研究における今日的課題	1前Ⅰ 1前Ⅱ	2 2	1 1	和歌山大学 教育学部准教授 (平成23年4月)	
29	兼任	准教授	ウエノ トモコ 上野 智子 (平成31年4月)		修士 (教育学)		自立活動(特別支援教育)	1通年	2	1	和歌山大学 教育学部准教授 (平成25年4月)	
30	兼任	准教授	アラキ リョウイチ 荒木 良一 (平成31年4月)		博士 (環境科学)		探求のための教材開発一米	1前Ⅱ	2	1	和歌山大学 教育学部准教授 (平成28年4月)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
31	兼任	講師	スギナカ コウヘイ 杉中 康平 (平成28年4月)		修士 (学校教育学)		道徳教育(小) 道徳教育(中)	1前II 1前II	2 2	1 1	四天王寺大学 教育学部准教授 (平成25年4月)	
32	兼任	講師	ニイヒラ シズヒロ 新平 鎮博 (平成31年4月)		博士 (医学)		障害児の生理病理と臨床	1後III	2	1	国立特別支援教育 総合研究所 上席総括研究員 教育情報部長 (平成27年4月)	
33	兼任	講師	キシ トシヒデ 貴志 年秀 (平成31年4月)		学士 (理工学)		探求のための教材開発－水 探求のための教材開発－光 探求のための教材開発－米	1前II 1前II 1前II	2 2 2	1 1 1	和歌山大学 客員教授 (平成29年4月)	
34	兼任	講師	カイボリ タカシ 海堀 崇 (平成28年4月)		法務博士 (専門職)		子どもの権利	1前II	2	1	海堀法律事務所 代表 (平成22年12月)	

(注)

- 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に属する学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

国立大学法人和歌山大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成30年度

入学 定員	編入学 定員	収容 定員
----------	-----------	----------

平成31年度

入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
----------	-----------	----------	-------

和歌山大学		入学 定員	編入学 定員	収容 定員
教育学部	学校教育教員養成課程	165	-	640
教育学部	総合教育課程	0	-	20
経済学部	経済学科	300	3年次 10	1024
経済学部	ビジネスマネジメント学科	0	3年次 0	114
経済学部	市場環境学科	0	3年次 0	112
システム工学部	システム工学科	305	3年次 20	1260
観光学部	観光学科	120	-	360
観光学部	観光経営学科	0	-	60
観光学部	地域再生学科	0	-	50
計		890	30	3,640
特別支援教育特別専攻科 発達障害教育専攻		10	-	10
計		10		10
和歌山大学大学院				
教育学研究科	学校教育専攻(M)	30	-	60
教育学研究科	教職開発専攻(P)	15	-	30
経済学研究科	経済学専攻(M)	15	-	30
経済学研究科	経営学専攻(M)	13	-	26
経済学研究科	市場環境学専攻(M)	10	-	20
システム工学研究科	システム工学専攻(M)	129	-	258
システム工学研究科	システム工学専攻(D)	8	-	24
観光学研究科	観光学専攻(M)	9	-	18
観光学研究科	観光学専攻(D)	6	-	18
計		235		484

→

和歌山大学		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
教育学部	学校教育教員養成課程	165	-	660	
教育学部	総合教育課程	0	-	0	平成28年度より学生募集停止
経済学部	経済学科	300	3年次 10	1220	
経済学部	ビジネスマネジメント学科	0	3年次 0	0	平成28年度より学生募集停止
経済学部	市場環境学科	0	3年次 0	0	平成28年度より学生募集停止
システム工学部	システム工学科	305	3年次 20	1260	
観光学部	観光学科	120	-	480	
観光学部	観光経営学科	0	-	0	平成28年度より学生募集停止
観光学部	地域再生学科	0	-	0	平成28年度より学生募集停止
計		890	30	3,620	
特別支援教育特別専攻科 発達障害教育専攻		0	-	0	平成31年度より学生募集停止
計		0		0	
和歌山大学大学院					
教育学研究科	学校教育専攻(M)	22	-	44	定員変更(Δ8)
教育学研究科	教職開発専攻(P)	23	-	46	専攻の課程変更
経済学研究科	経済学専攻(M)	15	-	30	
経済学研究科	経営学専攻(M)	13	-	26	
経済学研究科	市場環境学専攻(M)	10	-	20	
システム工学研究科	システム工学専攻(M)	129	-	258	
システム工学研究科	システム工学専攻(D)	8	-	24	
観光学研究科	観光学専攻(M)	9	-	18	
観光学研究科	観光学専攻(D)	6	-	18	
計		235		484	